

Alzheimer Café Dementia Café

令和6年度

横浜市

「認知症カフェ運営者」の
実態に関する調査報告書

横浜市健康福祉局高齢在宅支援課

令和7年1月

目次

1.はじめに	P 3
2.調査概要	P 3
3.調査結果のまとめ	P 4
4.考察	P 6
5.調査の結果	
5.1.調査の概要	
5.1.1.開始時期	P 8
5.1.2.開催している区	P 8
5.1.3.主な開催場所	P 8
5.1.4.主な運営主体	P 9
5.1.5.開催方法	P 9
5.1.6.開催頻度と時間	P 9
5.1.7.参加費	P10
5.1.8.主なプログラム	P11
5.1.9.カフェの主な目的	P11
5.1.10.参加者について	P12
5.1.11.運営スタッフについて	P14
5.1.12.運営スタッフ等の役割について	P17
5.1.13.開設にかかる資金について	P18
5.1.14.運営にかかる資金について	P18
5.1.15.認知症カフェの補助金について	P19
5.1.16.他の機関や事業所等との連携	P20
5.1.17.カフェの運営にあたって連携している団体	P20
5.1.18.カフェの運営以外で協力してくれる団体	P20
5.1.19.始めるにあたって課題となった点	P21
5.2.認知症カフェの運営の現状や課題	
5.2.1.認知症カフェの運営の現状や課題	P22
5.2.2.すでに実施している工夫	P22
5.3.認知症カフェの効果	P23
5.4.「HAMA OLE! (ハマオーレ) - 認知症カフェの運営に関わるみんなの情報誌」について	
5.4.1.「HAMA OLE! (ハマオーレ)」に対する認知度	P24
5.4.2.「HAMA OLE! (ハマオーレ)」の有用性	P24
5.4.3.「HAMA OLE! (ハマオーレ)」で取り上げてほしいテーマ	P24
5.5.認知症カフェの立ち上げ・継続的な運営に必要な支援	
5.5.1.認知症カフェの立ち上げに必要な支援	P25
5.5.2.認知症カフェの継続的な運営に必要な支援	P25
5.6.認知症カフェの運営者向け研修で取り上げてほしいテーマ	P25
6.横浜市における認知症カフェの実態調査に関する調査 調査の詳細	P26
7.調査票(参考)	P45

1. はじめに

認知症カフェは、「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場^{*} /認知症の人とその家族、地域住民、医療や福祉などの専門職など誰でも気軽に集まれる場所」であるとされ、認知症の人と家族にとって居場所となるだけでなく、地域の人や専門家と情報を共有し、理解し合える地域の関係者の連携の場ともなっている。

横浜市は、認知症の人と家族が安心して暮らせる地域づくりのひとつとして、認知症カフェの取組を平成 28 年度より進め、市内には 100 カ所を超えるさまざまな認知症カフェが開設されている。横浜市では、令和元年度に認知症カフェ運営者向けアンケート調査を実施し、その結果をもとに運営者向けに認知症カフェ研修を実施している。それ以降認知症カフェ運営者向け調査を行っておらず、認知症カフェの現状や課題が十分に把握できていない。そこで、横浜市内の認知症カフェにアンケート調査を行い、改めて支援方法を検討していく必要がある。

本調査で認知症カフェの現状や課題を把握し、今後の認知症カフェの活動支援に役立て、認知症の人と家族、地域住民、専門職等が安心して楽しく参加できる認知症カフェの発展を目指す。

※厚生労働省認知症施策検討プロジェクトチーム「今後の認知症施策の方向性について」（平成 24 年 6 月 18 日）

2. 調査概要

(1) 調査目的

認知症カフェ運営者向けアンケート調査の回答結果をデータ化し、データの集計・分析及びデータグラフ・図表等にまとめることにより、市内で開設されている認知症カフェの現状や課題、工夫、効果等を把握し、継続的な認知症カフェの運営や新たな認知症カフェの立ち上げに取り組めるよう、今後の活動支援に役立てることを目的とする。

(2) 調査手法

郵送または電子メールでの調査票の配布・回収によるアンケート調査

(3) 調査期間

令和 6 年 7 月から 8 月

(4) 調査対象者

令和 6 年 4 月 1 日時点で活動中の市内認知症カフェの運営者

(5) 調査回収状況

配送数 109カ所

有効回答数 87カ所(有効回答率:79.8%)

※調査結果の比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入しており、合計しても 100%にならない場合がある。

(6) 倫理的配慮

調査対象者には調査目的、方法、結果の公表等について文書にて協力を依頼した。調査に関しては、個人が特定できないよう、データ入力、保管を行い、プライバシーの保護に配慮したうえで実施している。

3. 調査結果のまとめ

本調査は、今後も認知症カフェの効果的な運営の在り方や、運営視点の方法を探ることを目的とし、運営者の視点から「認知症カフェ」の実態の把握を試みた。令和元年度に実施した認知症カフェ運営者向けのアンケートの結果も踏まえ、調査結果から見えてきたことについて、以下の通りまとめる。

なお、詳細な調査結果項目ごとの結果については、「5.調査の結果」に記載している。

① 認知症カフェの目的

・5.1.9.「カフェの主な目的」について、「認知症の本人や家族同士の相互交流・情報交換」が61件、「地域での認知症啓発」が48件、「家族の介護負担の軽減」が21件、「認知症症状の悪化予防」21件であった。また、令和元年度の結果と比較し、「認知症の本人や家族の相互交流・情報交換」や「家族の介護負担の軽減」の割合がわずかに大きくなっており、認知症カフェが認知症の本人や家族により焦点を当てているカフェが増えていることがわかった。

② 開催頻度について

・5.1.6.「開催頻度と時間」について、定期的で開催しているカフェが9割以上を占める(94.3%)。また、カフェを開催している曜日として平日に開催しているカフェが68.7%、土日に開催しているカフェが31.3%であった。

③ 主なプログラムについて

・5.1.8.「主なプログラム」について、プログラムを決めて行っているカフェが71件(82.0%)となっている。また、プログラムの内容として、「カフェタイム」が最も高く(77.0%)、「アクティビティ(歌、工作、作業など)」(72.4%)、「ミニ講話」(46.0%)とつづいており、運営者がプログラムについてさまざまな工夫をしていることが分かった。

④ 認知症の方の役割について

・5.1.10.「参加者について」のうち(エ)認知症の方の役割について、「主に参加者として」が62件(71.3%)、「役割を持ってもらう」が12件(13.8%)など、社会参加だけではなく、本人のできることに目を向け関わることで認知症の方のご本人のやりがいにもつながっていると考えられる。

⑤ 運営スタッフについて

・5.1.11.「運営スタッフについて」のうち(エ)運営スタッフの年齢別内訳について、「60歳代」が18.8%、「70歳代」が39.8%、「80歳以上」が14.3%であり、運営スタッフのうち70歳以上が54.1%であった。
・5.2.1.「認知症カフェの運営の現状や課題」の「認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問」について、「スタッフの高齢化、新しい担い手がない」「担い手が高齢で負担感が大きい」などスタッフの高齢化や新たな担い手不足に課題を感じていることが分かった。

⑥ 他の機関や事業所等との連携について

・5.1.16.「他の機関や事業所等との連携」について、「連携をしている」が48件(55.2%)、「連携が必要だと思うがまだ連携をしていない」29件(33.3%)であり、「連携している」もしくは「連携が必要だと思う」カフェが9割近くあることがわかった。

⑦ 認知症カフェの運営の現状や課題について

・5.2.1.「認知症カフェの運営の現状や課題」の項目のうち「全般的に順調である」について、「そう思う」または「ややそう思う」が全体の8割であった。また、「認知症カフェの認知度が低い」について、「そう思う」または「ややそう思う」が全体の74.7%（令和元年度：58%）、「認知症の方の参加者が集まらない」について、「そう思う」または「ややそう思う」が全体の68.6%（令和元年度：68%）、「運営スタッフのスキルアップが必要」について、「そう思う」または「ややそう思う」が全体の57.8%（令和元年度：45%）であり、認知症カフェの認知度や参加者不足、運営スタッフのスキルアップ等、様々な課題を抱えていることがわかった。

⑧ 認知症カフェの効果

・5.3.「認知症カフェの効果」より認知症の人、地域住民、家族介護者、専門職等、その他について、それぞれ以下のような認知症カフェの効果があると思われる。

認知症の人 社会参加や居場所づくりにつながる。楽しく笑顔になることができる。役割を持ち参加することで、やりがいを感じてもらう。

地域住民 地域交流の場。ボランティアとしての活動機会につながる。認知症の方やご家族と接したり、ミニ講座を受けたりする中で認知症への理解が進む。

家族介護者 介護者同士の交流や介護経験者や専門職等への相談を通じて精神的な負担軽減につながる。介護者の孤立予防につながる。

専門職等 認知症のご本人・ご家族と接する中でニーズの把握につながる。必要に応じて、次のサービスにつなげることができる

その他 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりにつながる。ボランティアとしてのやりがいを感じる。

⑨ 認知症カフェの立ち上げについて

・5.1.19.「始めるにあたって課題となった点」について、「広報や周知」が53件（60.9%）で最も多く、次いで「プログラムの内容」が41件（47.1%）、となっている。また、自由記載欄では「運営スタッフ不足」や「周知の方法」、「認知症の人や介護者への周知の方法」などの意見が多く見られた。

・5.5.1.「認知症カフェの立ち上げについて必要な支援」について、「認知症カフェの普及啓発」が39件（44.8%）で最も多く、次いで「運営スタッフの人員確保」が31件（35.6%）、「運営方法やプログラムに関する研修の機会」が21件（24.1%）となっている。

⑩ 認知症カフェの継続的な運営に必要な支援について

・5.2.2.「認知症カフェの継続的な運営に必要な支援」について、「認知症カフェの周知啓発」が30件（34.5%）で最も多く、次いで「運営スタッフの人員確保」が27件（31.0%）、「運営スタッフのスキルアップ」が23件（26.4%）となっている。

4. 考察

本調査の結果から、「認知症の本人や家族同士の相互交流・情報交換」や「地域での認知症の普及啓発」など様々な目的を持ちカフェ運営を行っていただいている(5.1.9.カフェの主な目的)ことが明らかになった。また、定期的に月に1回以上実施しているカフェが8割弱あることが明らかになっており、身近な居場所となっていると考えられる。また、平日に開催しているカフェが68.7%であるのに対し、土日に開催しているカフェが31.3%あり、平日仕事をしている家族などより多くの方々に参加できるように調整していただいていると考える(5.1.6.開催頻度と時間)。

さらに、「カフェタイム」や「アクティビティ(歌、工作、作業等)など全体の80%以上がプログラムを決めて行っている(5.1.8.主なプログラム)。加えて、認知症の方の参加について、参加者としてだけでなく、認知症の方に何らかの役割をもてるようにしているカフェが1割あることから、社会参加だけではなく、カフェの中で役割を持ってもらうことで認知症ご本人がやりがいを持てるよう工夫をしていると考える(5.1.10.参加者について)。

令和5年度に実施した参加者向けアンケート結果より、参加者の認知症カフェ満足度では、参加者の約9割が満足しているという結果が明らかになっており、これは運営者の皆様が認知症カフェの目的を達成できるよう、プログラムや認知症のご本人を含めた参加者の方々の役割等さまざまな工夫を行っており、運営者の皆様の努力の賜物であると考える。

また、認知症のご本人や家族だけでなく、地域住民の方々も多く参加していることが分かった(5.1.10.参加者について)。さらに、参加者の皆様への効果のみならず、認知症カフェが認知症の方を地域で支える一助になっていると感じているように(5.3.認知症カフェの効果)、認知症カフェが地域で暮らす人たちにとって必要な居場所であると考えられる。また、認知症の方々の共生社会へ向けた一端を担っていると運営者の皆様が感じていることが明らかになっており、認知症カフェが認知症の人にとってその人らしく希望を持って暮らすことができるような地域づくりにつながっていると推察される。

横浜市では、認知症カフェの立ち上げにあたって、認知症に関する要素を取り入れているカフェであれば特設設立の条件等を設けていない。このため、比較的自由に認知症カフェを運営していただいております、認知症の方々だけでなく地域住民にとっても認知症について理解を深める重要な社会資源であると考えられる。

一方で、本調査から見えてきた課題について考えていきたい。

現状として、全体的に順調と回答したカフェが8割ある(5.2.1.認知症カフェの運営の現状や課題)。その一方で、令和5年度の参加者向けアンケート結果では参加者が認知症カフェに対する期待として「認知症カフェの継続」が最も多いため、本市としてカフェの継続に向けた支援を検討していく必要がある。

このため、今後もカフェが継続できるようにするために、本調査で見えてきた以下の課題に対して、検討していきたい。

1つ目は、認知症カフェの認知度が低く、認知症の方の参加者が集まらないという点である。この課題は、立ち上げに向けての課題、継続的な運営に向けての課題両方に共通しており、重要な問題の一つであると考え（5.1.19.始めるにあたって課題となった点、5.2.1.認知症カフェの運営の現状や課題、5.5.1.認知症カフェの立ち上げに必要な支援、5.5.2.認知症カフェの継続的な運営に向けて必要な支援）。このため、横浜市では、改めて地域での認知症カフェの認知度を向上させ、気軽に立ち寄ることができる場であることを知ってもらう必要があり、必要としている人に情報発信を行っていく必要があると考える。

2つ目は、運営スタッフのスキルアップである（5.2.1.認知症カフェの運営の現状や課題）。今後、さらに高齢者人口が増えるにつれ、認知症と自身が認識していない人等高齢者を取り巻く環境は変化していくことが予測される。このため、カフェの運営者様がこの時代の変化に対応できるよう、ニーズにあった研修を行っていく必要があると考える。

3つ目は担い手不足・担い手の高齢化である。今回の調査では、運営スタッフの40代以下が1割程度であり、70歳以上が半数以上を占めていることが明らかになった（5.1.11.運営スタッフについて）。また、昨年の調査結果においても、参加者に若年層があまりいないことが明らかになっており、若い世代に向けた周知・啓発を行い、興味を持ち、担い手へとつないでいくことが重要であるため、SNS等若い世代が情報収集する手段としてよく活用されているツールを使用し周知していく必要がある。

また、地域で活動するキャラバン・メイトやボランティアなどを認知症カフェの運営に尽力いただける可能性のある方との研修等を通して交流の場の創出を行うことも有効であると考え。その他にも地域の関係機関と「連携が必要だと思うがまだ連携していない」カフェが全体の3割を占めているが明らかになっており（5.1.16.他の機関や事業所等との連携）、認知症カフェの運営者がどのような関係機関とつながり、関係を構築すること等に困難を感じている可能性が推察された。

その中で認知症カフェ同士の横のつながりを持つこと、具体的に区域等での情報交換の場や勉強会等を行うことが有効であると考え。理由として、運営者の皆様が相談することのできる地域にある関係機関を知り、必要に応じて連携を依頼することにつながると感じた。その他にも、認知症カフェ同士がつながりを持ち、認知症カフェ運営者同士が顔の見える関係になることで、普段から連絡や相談がしやすい環境ができ、問題解決への糸口を見つけたり、カフェ同士の情報交換で活動の周知につながるきっかけになると考える。このように、今後はカフェ同士の横のつながり創出にも力を入れていきたい。

本市では、今後、令和4年から令和22年までの18年間で認知症高齢者数は約1.5倍の約17.9万人となる見込みで、高齢者の6.7人に1人が認知症高齢者となることが予想されている。

このため、認知症カフェは地域で暮らす人たちにとって必要な居場所であり、認知症の方々の共生社会へ向けた必要な社会資源であるため、上述したような継続できるための支援を実施することが求められている。また、時代とともに認知症カフェを取り巻く環境も変化していくため、引き続き現状・課題の把握を行い、本市としての認知症カフェ支援の検討を行う必要がある。

5. 調査の結果

5.1. 調査の概要

5.1.1. 開始時期

開始年	回答数	開始年	回答数
2013	1	2020	2
2014	5	2021	4
2015	13	2022	11
2016	7	2023	10
2017	15	2024	3
2018	12	未回答	2
2019	2		

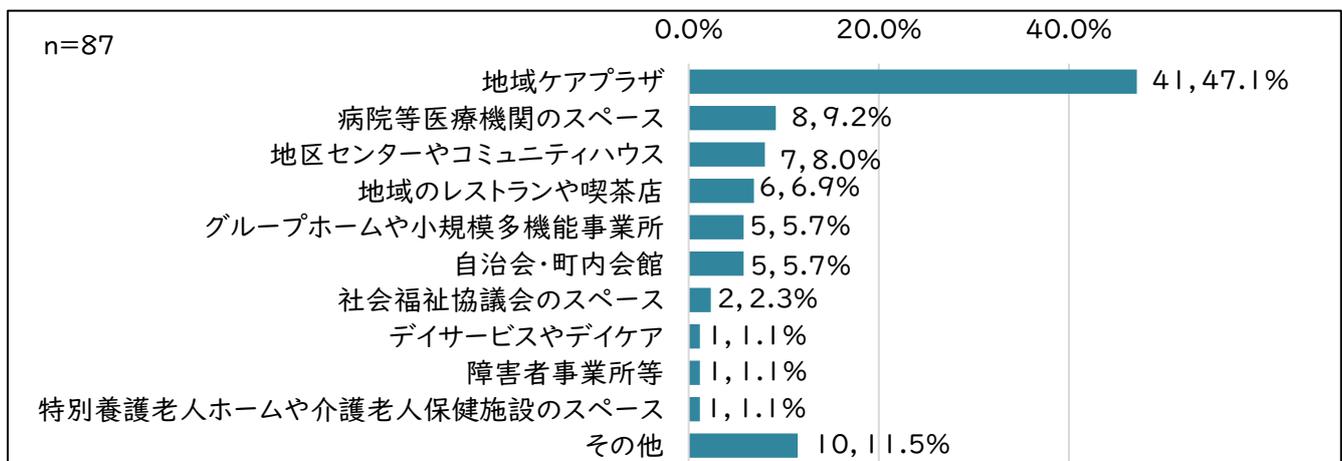
本調査で回答を得た 87 の認知症カフェのうち、開始時期について未回答の 2 か所を除く 85 か所の認知症カフェは、すべて今年度を含む直近 12 年以内に開始されている。

5.1.2. 開催している区

開催区	回答数	比率 (n=87)	開催区	回答数	比率 (n=87)
青葉区	13	14.9%	金沢区	4	4.6%
旭区	7	8.0%	鶴見区	4	4.6%
戸塚区	7	8.0%	都筑区	3	3.4%
泉区	7	8.0%	磯子区	3	3.4%
保土ヶ谷区	7	8.0%	神奈川区	3	3.4%
南区	6	6.9%	瀬谷区	3	3.4%
栄区	6	6.9%	中区	2	2.3%
港南区	6	6.9%	西区	1	1.1%
港北区	5	5.7%	緑区	0	0.0%
合計			87	100%	

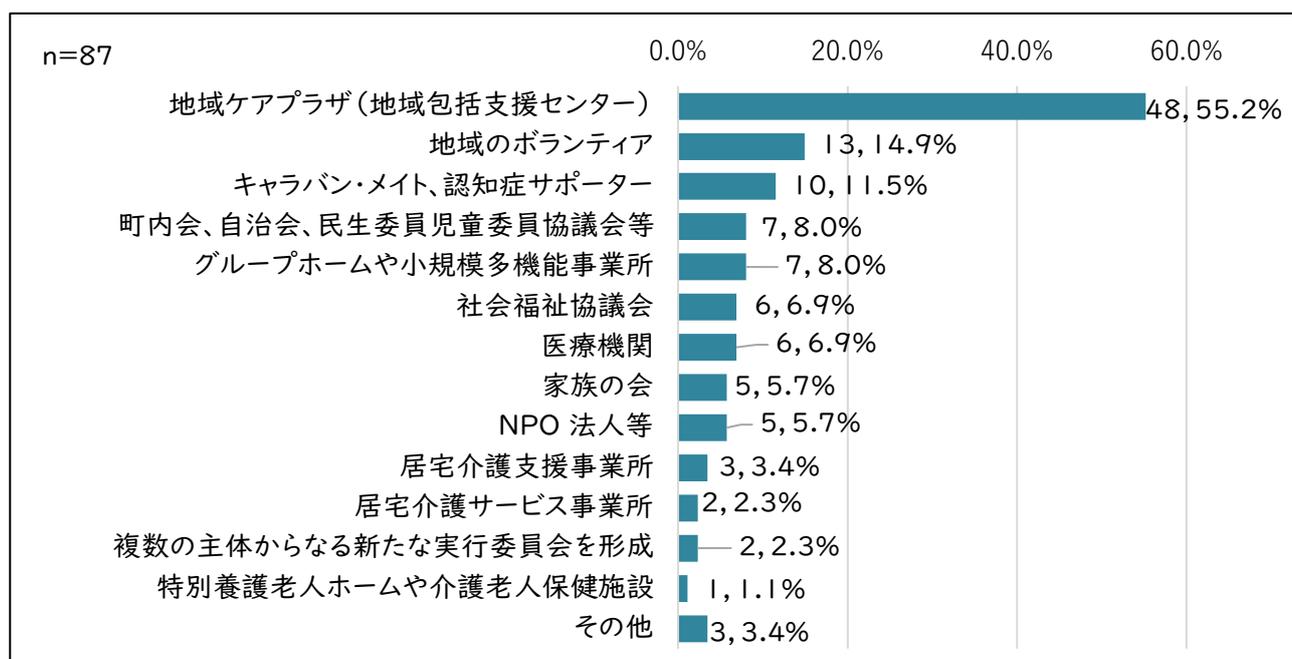
本調査で回答を得た 87 の認知症カフェは、青葉区が最も多く(13 か所)、旭区、戸塚区、泉区、保土ヶ谷区が同数で続く(7 か所)。

5.1.3. 主な開催場所



主な開催場所は、「地域ケアプラザ」が突出して高く(47.1%)、「病院等医療機関のスペース」(9.2%)、「地区センターやコミュニティハウス」(8.0%)「地域のレストランや喫茶店」(6.9%)、「グループホームや小規模多機能事業所」「自治会・町内会館」(5.7%)が続く。その他としては、寺院や民間企業のスペース等が挙げられた。

5.1.4.主な運営主体【複数回答可】



主な運営主体は、「地域ケアプラザ(地域包括支援センター)」が突出して高く、半数以上を占める(55.2%)。その後、「地域のボランティア」(14.9%)、「キャラバン・メイト、認知症サポーター」(11.5%)「町内会、自治会、民生委員児童委員協議会等」「グループホームや小規模多機能事業所」(8.0%)が続く。

5.1.5.開催方法

開催方法	回答数	比率 (n=87)
定期的に認知症カフェを単独の取組として開催している	64	73.6%
定期的なサロン活動等のうち特定の日を認知症カフェとして開催している	17	19.5%
認知症の普及啓発等のイベントに合わせて開催している	2	2.3%
その他	2	2.3%
未回答	2	2.3%
総計	87	100.0%

開催方法は、「定期的に認知症カフェを単独の取組として開催している」が突出して高く、7割以上を占める(73.6%)。「定期的なサロン活動等のうち特定の日を認知症カフェとして開催している」が続く(19.5%)。

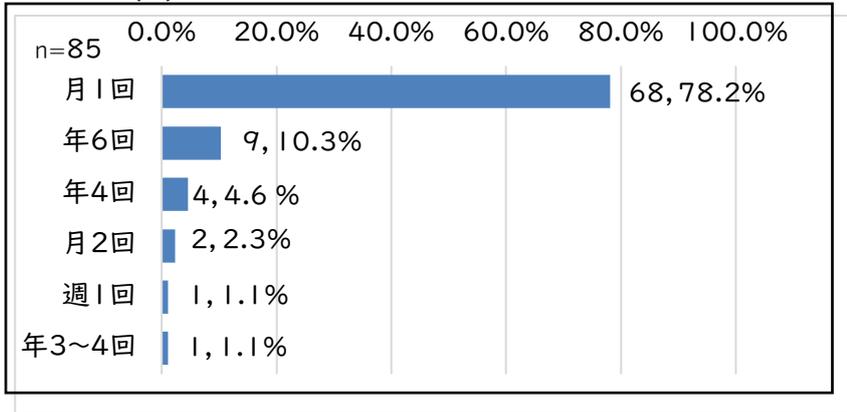
5.1.6.開催頻度と時間

(ア) 開催頻度(定期/不定期)

開催頻度 (定期/不定期)	回答数	比率 (n=87)
定期	82	94.3%
不定期	5	5.7%
総計	87	100.0%

開催頻度(定期/不定期)は、「定期」が高く、9割以上を占める(94.3%)。「不定期」は1割に満たない(5.7%)。

(イ) 開催頻度(回数)



開催頻度(回数)は、「月1回」が突出して高く、8割弱を占める(78.2%)。「年6回」(10.3%)、「年4回」(4.6%)が続く。月2回以上の頻度で開催している認知症カフェは3か所のみである。

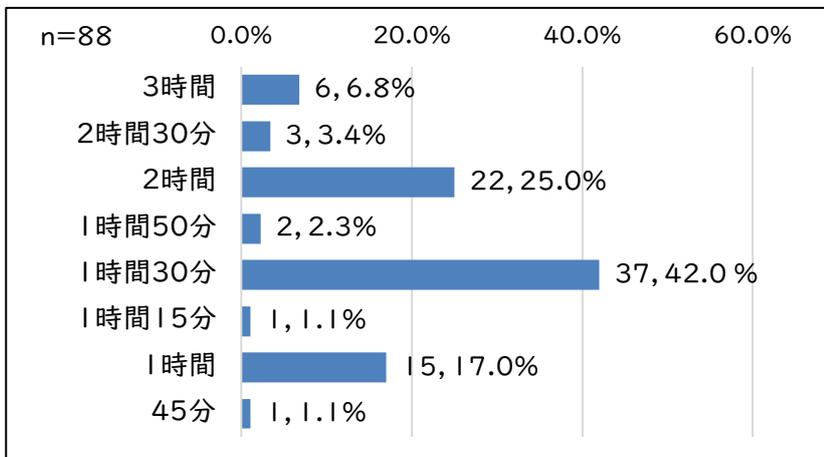
(ウ) 開催曜日

開催曜日	回答数	比率 (n=83)
平日	57	68.7%
土日	26	31.3%
総計	83	100.0%

開催曜日は、平日に開催しているカフェが68.7%であるのに対し、土日に開催しているカフェが31.3%である。

※1つの認知症カフェが、複数の曜日で定期開催している場合、それぞれの曜日をカウント
※不定期のカフェを除く

(エ) 平均開催時間



平均開催時間は、「1時間30分」が最も高く(42.0%)、「2時間」(25.0%)、「1時間」(17.0%)が続く。

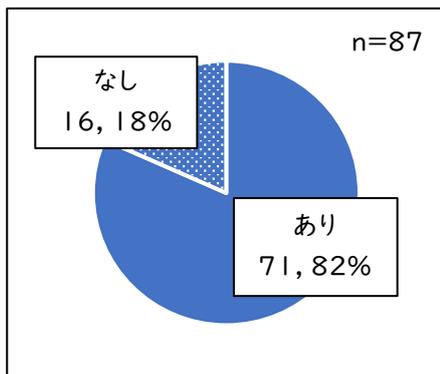
※1つの認知症カフェが、複数の曜日で定期開催している場合、平均でカウント

5.1.7.参加費

参加費	回答数	比率 (n=87)
1回ごとに参加費をもらう	58	66.7%
無料	21	24.1%
その他	8	9.2%
総計	87	100.0%

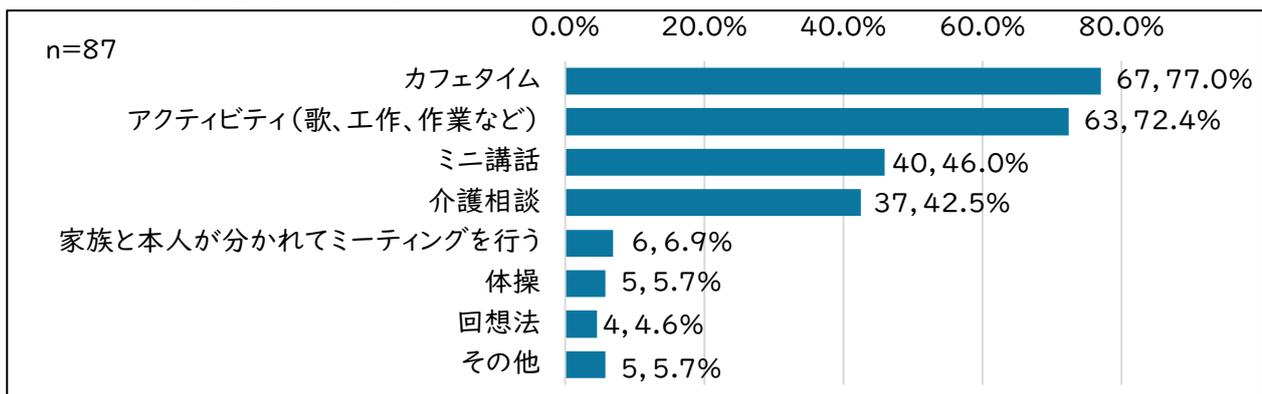
参加費は、「1回ごとに参加費をもらう」が最も高く、2/3を占める。「無料」は約1/4である(24.1%)。その他としては、カフェ内で提供される食事等を購入される場合に生じる代金であった。

5.1.8.主なプログラム

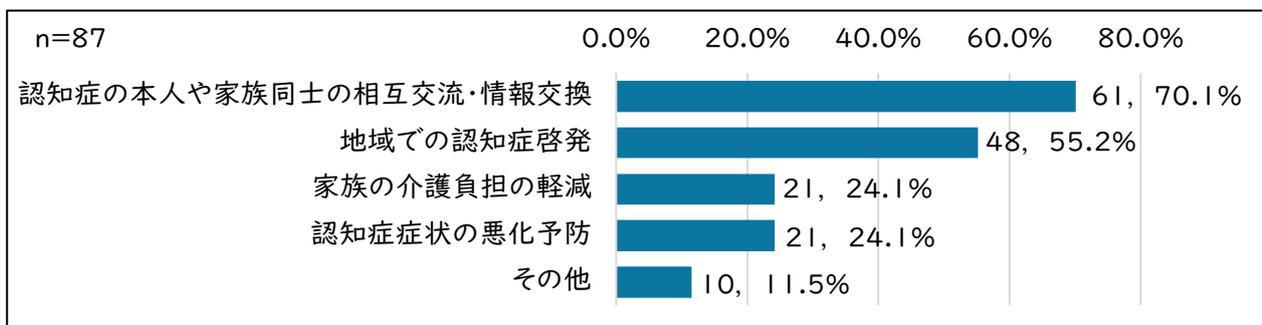


プログラム「あり」は、全体の 82%であった。また、主なプログラムは、「カフェタイム」が最も高く (77.0%)、「アクティビティ(歌、工作、作業など)」(72.4%)、「ミニ講話」(46.0%)が続く。その他としては、書籍や新聞等の情報紹介や食事などが挙げられた。

<プログラム内容>【複数回答可】



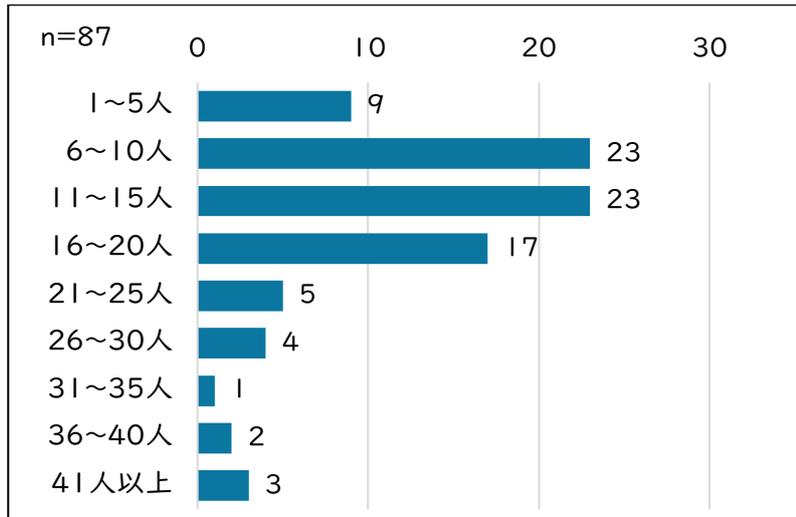
5.1.9.カフェの主な目的【2つまで回答可】



カフェの主な目的は、「認知症の本人や家族同士の相互交流・情報交換」が最も高く、約 7 割を占める (70.1%)。「地域での認知症啓発」が続く (55.2%)。その他としては、地域住民同士の交流等が挙げられた。

5.1.10.参加者について

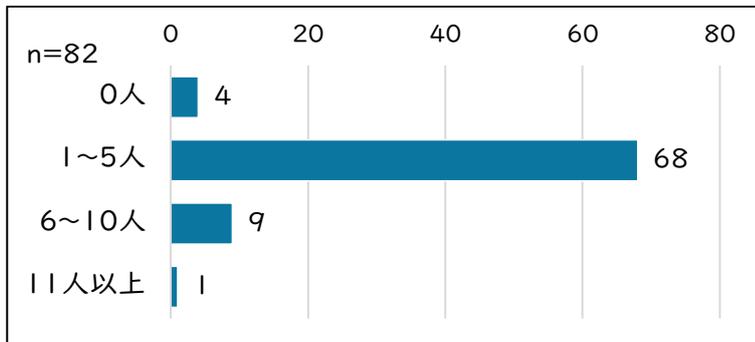
(ア) 1回当たりの平均的な合計参加者数



1回当たりの平均的な合計参加者数は、「6~10人」および「11~15人」が最も多く(23か所)、「16~20人」(17か所)、「1~5人」(9か所)が続く。

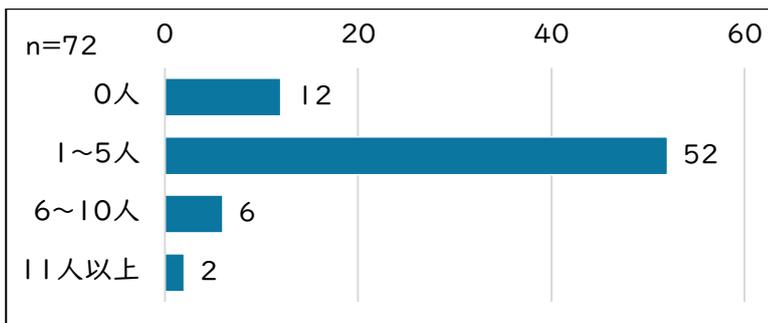
(イ) 1回当たりの内訳別参加者数

<認知症の方>



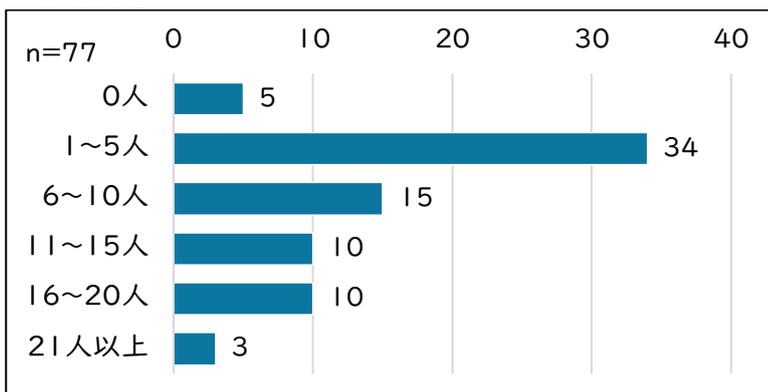
認知症の方は、「1~5人」が最も多く(68か所)、「6~10人」(9か所)が続く。

<家族>



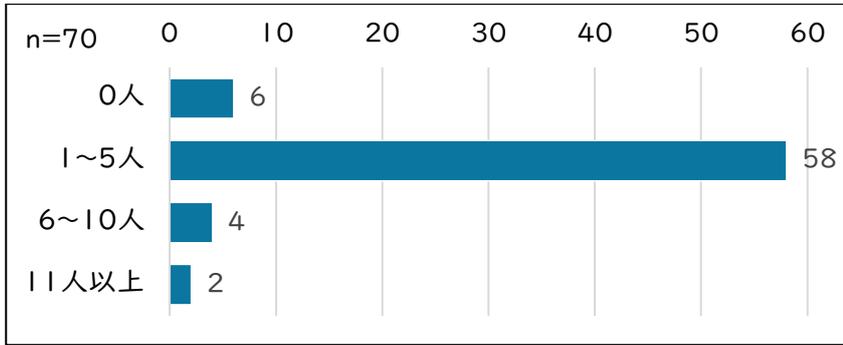
家族は、「1~5人」が最も多く(52か所)、「0人」(12か所)が続く。

<地域住民>



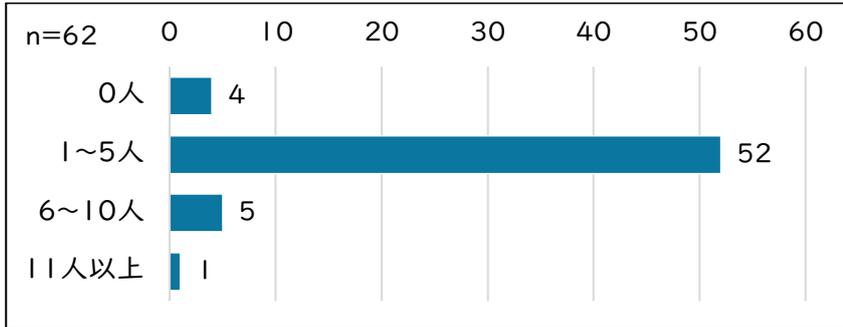
地域住民は、「1~5人」が最も多く(34か所)、「6~10人」(15か所)が続く。

<専門職>



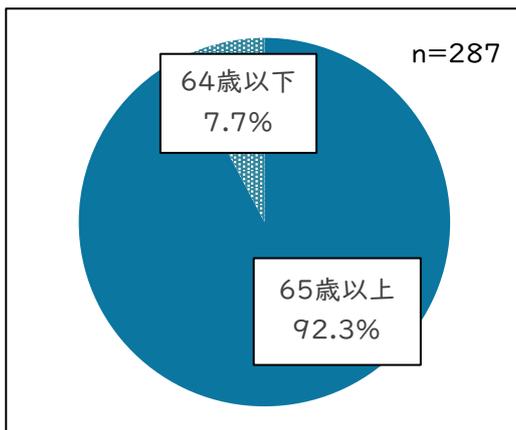
専門職は、「1~5人」が最も多く(58か所)、「0人」(6か所)が続く。

<その他>



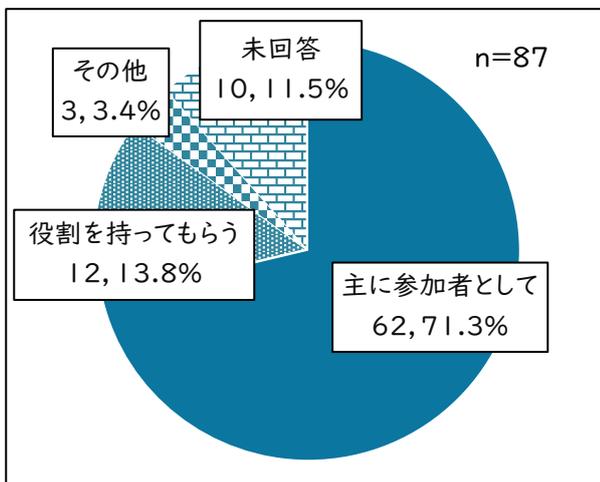
その他は、「1~5人」が最も多く(52か所)、「6~10人」(5か所)が続く。その他の内訳としては、キャラバン・メイトや民生委員等であった。

(ウ) 認知症の方の年齢別内訳(全カフェ合計)



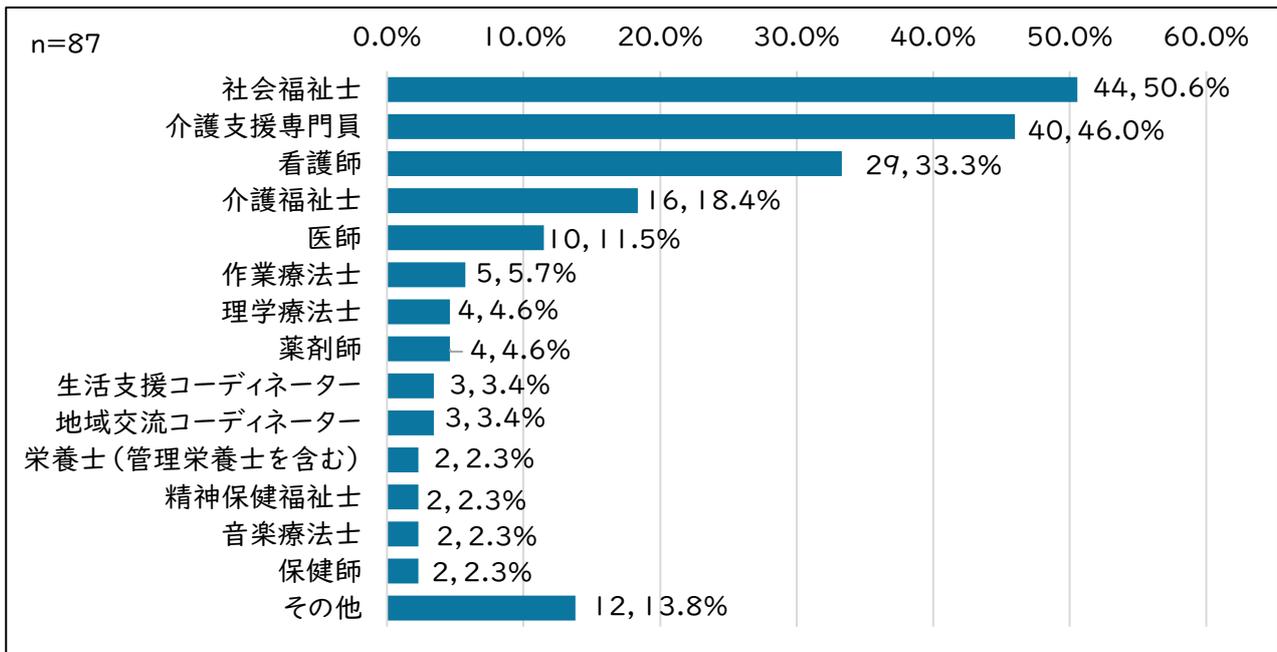
認知症の方の年齢別内訳(全カフェ合計)は、65歳以上が9割以上を占める(92.3%)。

(エ) 認知症の方の役割



認知症の方の役割は、「主に参加者として」が最も高く(71.3%)、「役割を持ってもらう」が続く(13.8%)。

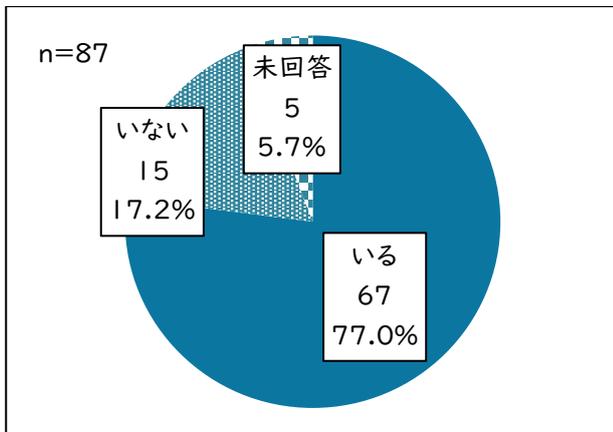
(オ) 専門職の内訳【複数回答可】



専門職の内訳は、「社会福祉士」が最も高く、過半数を占める(50.6%)。「介護支援専門員」(46.0%)、「看護師」(33.3%)が続く。その他としては、公認心理師、保健師、行政書士等が挙げられる。

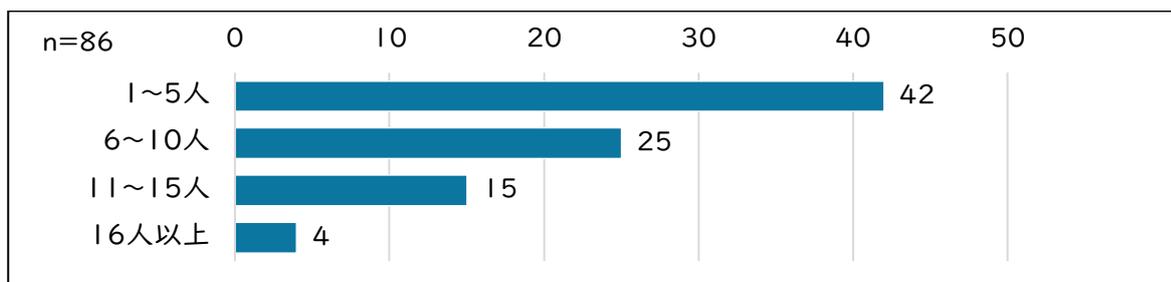
5.1.11.運営スタッフについて

(ア) 運営を専属で担当するスタッフの有無



運営を専属で担当するスタッフの有無は、「いる」が約 3/4 を占める(77.0%)。

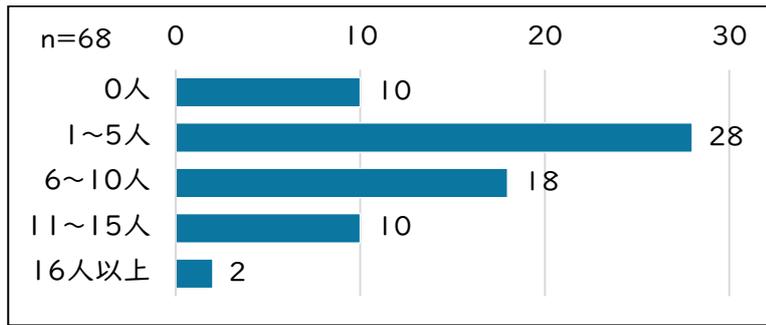
(イ) 運営スタッフの総数



運営スタッフの総数は、「1~5人」が最も多く(42か所)、「6~10人」(25か所)、「11~15人」(15か所)が続く。

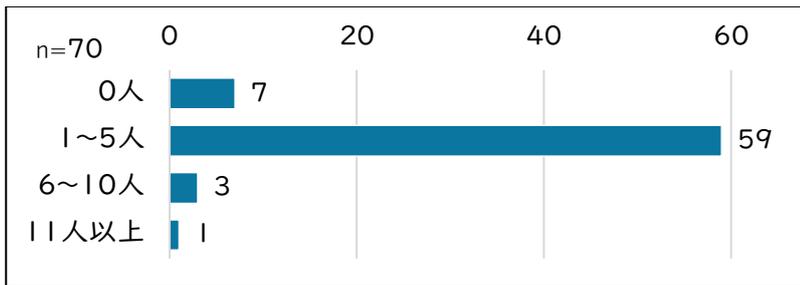
(ウ) 運営スタッフの内訳

<地域住民>



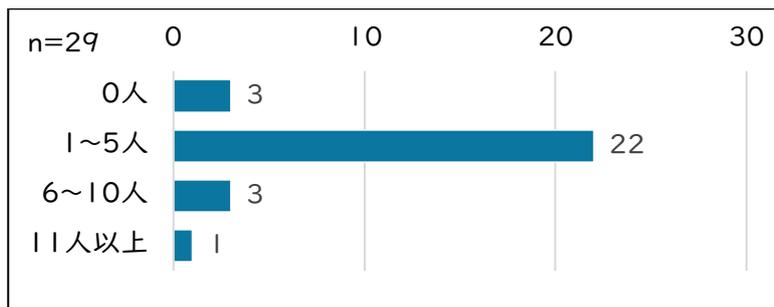
地域住民は、「1~5人」が最も多く(28か所)、「6~10人」(18か所)が続く。

<専門職>



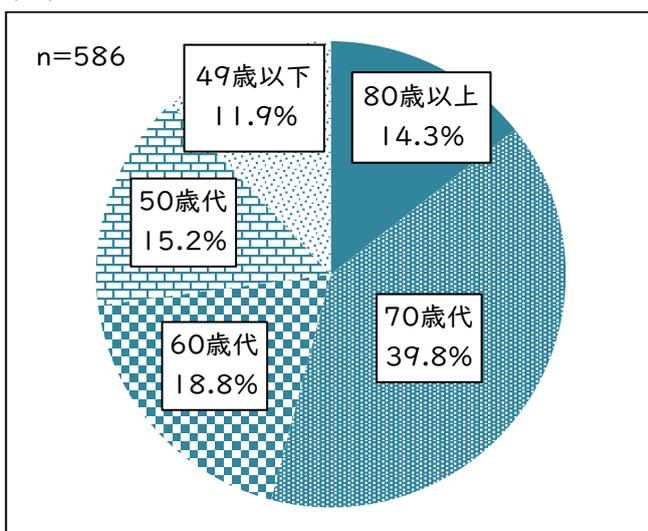
専門職は、「1~5人」が最も多く(59か所)、「0人」(7か所)が続く。

<その他>



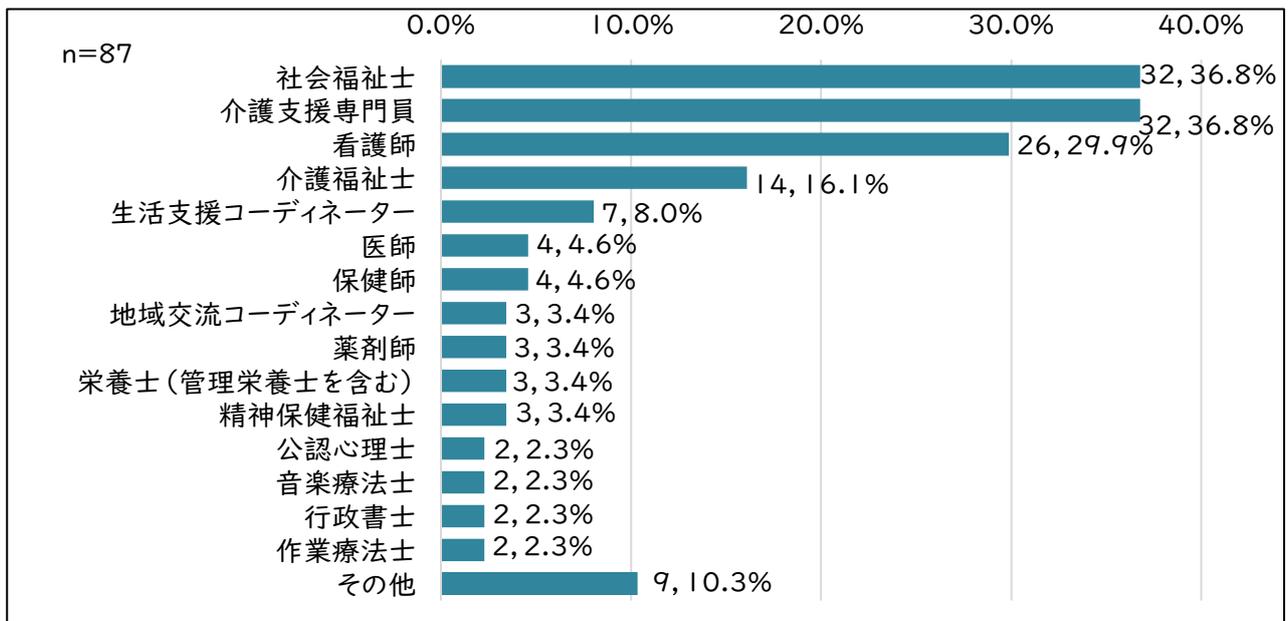
その他は、「1~5人」が最も多く(22か所)、「0人」、「6~10人」(3か所)が続く。
その他としては、キャラバン・メイトや民生委員、地域のボランティア等があった。

(エ) 運営スタッフの年齢別内訳(全カフェ合計)



運営スタッフの年齢別内訳(全カフェ合計)は、「70歳代」が最も高く(39.8%)、「60歳代」(18.8%)、「50歳代」(15.2%)、「80歳以上」(14.3%)が続く。

(オ) 専門職の内訳【複数回答可】



専門職の内訳は、「社会福祉士」と「介護支援専門員」が最も高く(36.8%)、「看護師」が同数で続く(29.9%)。

その他としては、精神保健福祉相談員、言語聴覚士であった。

5.1.12.運営スタッフ等の役割について ※詳細は 26 ページ参照

(ア) 地域住民の役割【自由記載】

地域住民の役割 (抜粋)
カフェの内容検討、当日の会場設営・参加者の対応・飲食の提供など
当日の運営(設営、受付、お茶出し、おやつ準備、レグ補助、話し相手、片付け)
一人暮らしの高齢者さんへの声掛け。お誘い(カフェへ)
パンフレットの作成
講座開催等のチラシ回覧、知人への紹介等
困りごとがある方をお誘いする。参加者の方を徒歩で送迎
本人とその家族にとって居心地の良い場所の提供
傾聴、話し相手
カフェでの話題提供 お話しの聴き手として
当事者の方を誘い一緒に参加する・話し相手・手作りケーキ、テーブル花の準備提供 等
カフェボランティアとして主体的に参加していただくだけでなく、お友達を誘っていただくなど横の繋がりを期待している

(イ) 専門職の役割【自由記載】

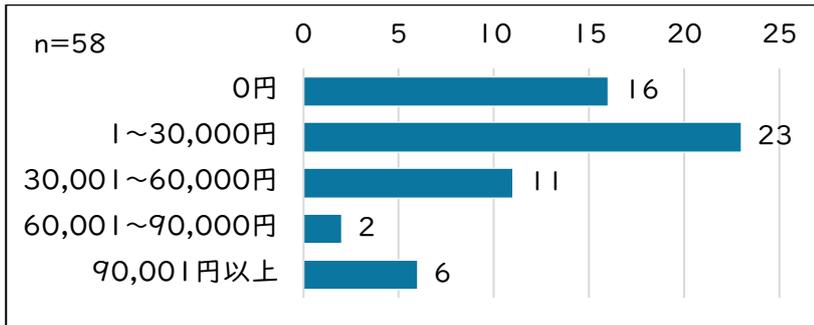
専門職の役割 (抜粋)
開催周知・イベント企画
支援につながっていない方への支援方法を運営メンバーと一緒に考える。
カフェの運営・見守り、参加者の簡単な相談
認知症に関する情報提供、相談アドバイス
カフェの運営、介護相談への対応
必要物品の準備・管理、内容検討、出演者の依頼・対応、介護等相談対応
参加者同士の交流促進やアクティビティ参加へのフォロー、及び日常生活等の相談対応
介護の相談。介護者へのアドバイス。傾聴。サービス事業所へ橋渡し
会場設営、認知症参加者のフォロー
場所を提供してくれている薬局との調整や連絡、当日の進行、飲みものの準備
介護サービスにつながらないサービスのご利用のない方への見守り、家族からの傾聴、居場所づくり

(ウ) その他の人の役割【自由記載】

その他の人の役割 (抜粋)
カフェの準備、当月の運営。プログラムの検討・実行など
連絡調整等・事務局
カフェの準備や時間内のアテンド。片付け。
参加者の方への傾聴
ピアノ伴奏や、話し相手など、それぞれの得意分野で役割を担っている。
参加者への声掛け
参加者同士の交流促進やアクティビティ参加へのフォロー
参加者が安心して参加出来る雰囲気づくり
情報提供・当事者の紹介
音楽演奏など
ミニ講座等の企画
口腔体操など

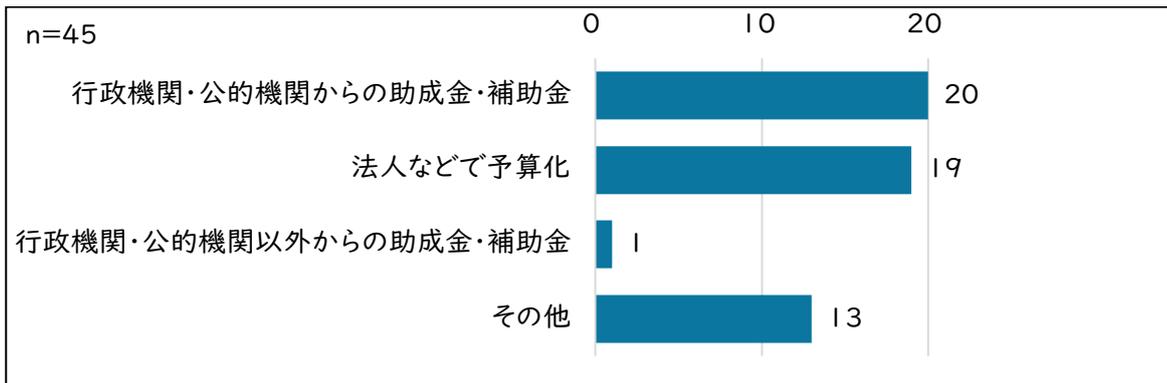
5.1.13.開設にかかる資金について

(ア) 開設費



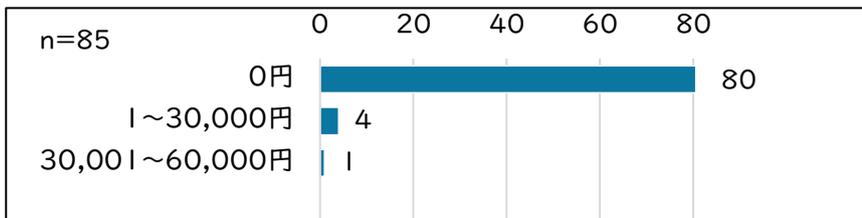
開設費は、「1~30,000円」が最も多く(23か所)、「0円」(16か所)、「30,001~60,000円」(11か所)が続く。

(イ) 開設費の内訳【複数回答可】



開設費の内訳としては、「行政機関・公的機関からの助成金・補助金」が最も多く(20か所)、「法人などでの予算化」(19か所)が続く。

(ウ) 不足している資金

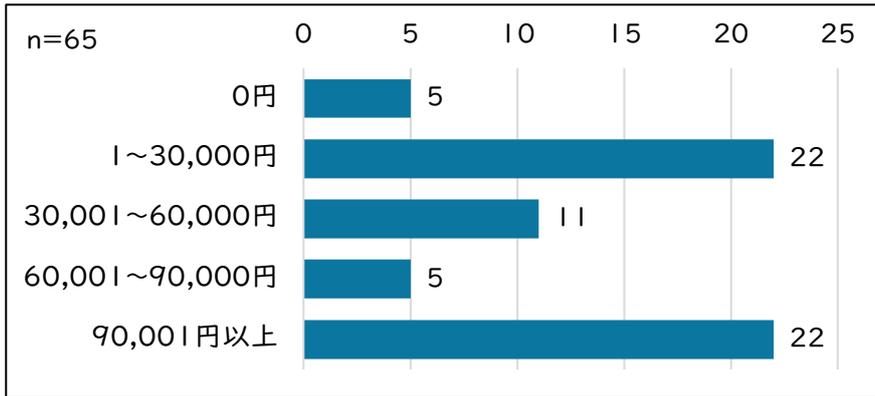


不足している資金は、「0円」が最も多い(80か所)。

※0円には未回答もしくは0円と回答したものを含む

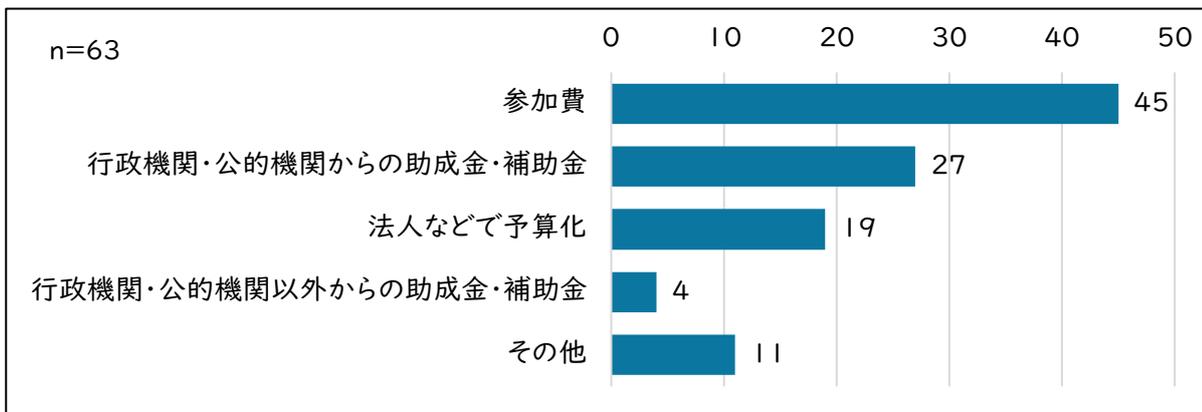
5.1.14.運営にかかる資金について

(ア) 年間の運営費



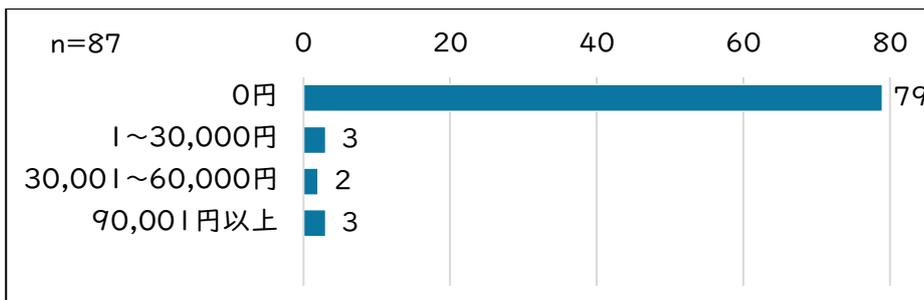
年間の運営費は、「1~30,000円」、「90,001円以上」が同数で最も多く(22か所)、「30,001~60,000円」(11か所)が続く。

(イ) 年間の運営費の内訳



年間の運営費の内訳としては、「参加費」(45か所)が最も多く、「行政機関・公的機関からの助成金・補助金」(27か所)が続く。

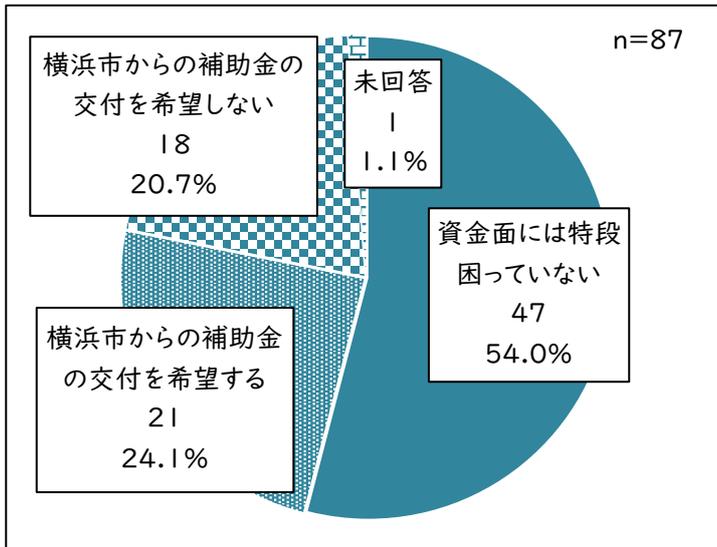
(ウ) 不足している資金



※0円には未回答もしくは0円と回答したものを含む

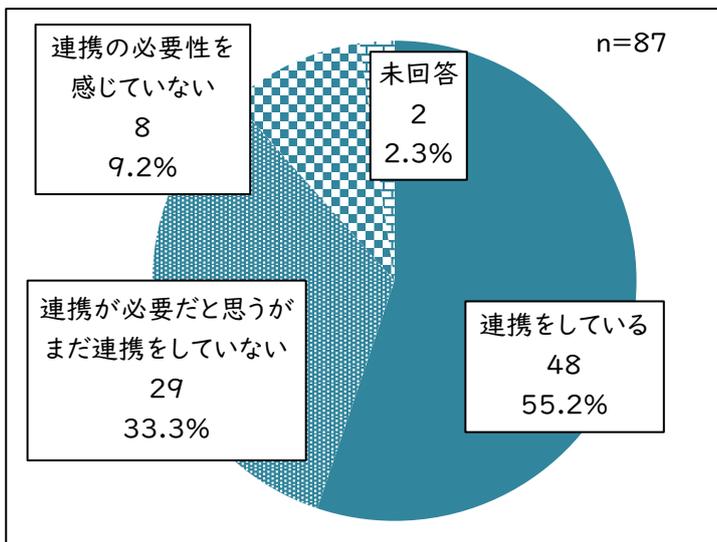
不足している資金は、「0円」が最も多い(79か所)。

5.1.15.認知症カフェの補助金の交付について



補助金の交付については、「資金面には特段困っていない」が最も高く（54.0%）、「横浜市からの補助金の交付を希望する」（24.1%）が続く。「資金面には特段困っていない」または「横浜市からの補助金の交付を希望しない」とした運営者は約 3/4 を占める（74.7%）。

5.1.16.他の機関や事業所等との連携



他の機関や事業所等との連携は、「連携をしている」が最も高く過半数を占める（55.2%）。「連携をしている」または「連携が必要だと思うがまだ連携をしていない」とした運営者は約 9 割弱を占める（88.5%）。「連携の必要性を感じていない」は 1 割に満たない（9.2%）。

5.1.17.カフェの運営にあたって連携している団体

カフェ運営にあたって連携している団体数	回答数	比率 (n=87)
1	24	27.6%
2	9	10.3%
3	6	6.9%
4	1	1.1%
0	3	3.4%
未回答	44	50.6%
総計	87	100.0%

連携している団体数は、「1」が最も高く（27.6%）、「2」が続く（10.3%）。「0」は 1 割に満たないが（3.4%）、無回答が半数以上を占める（50.6%）。

また、連携している団体としては、ケアプラザ、町内会、地区社会福祉協議会、医療機関などがあつた。

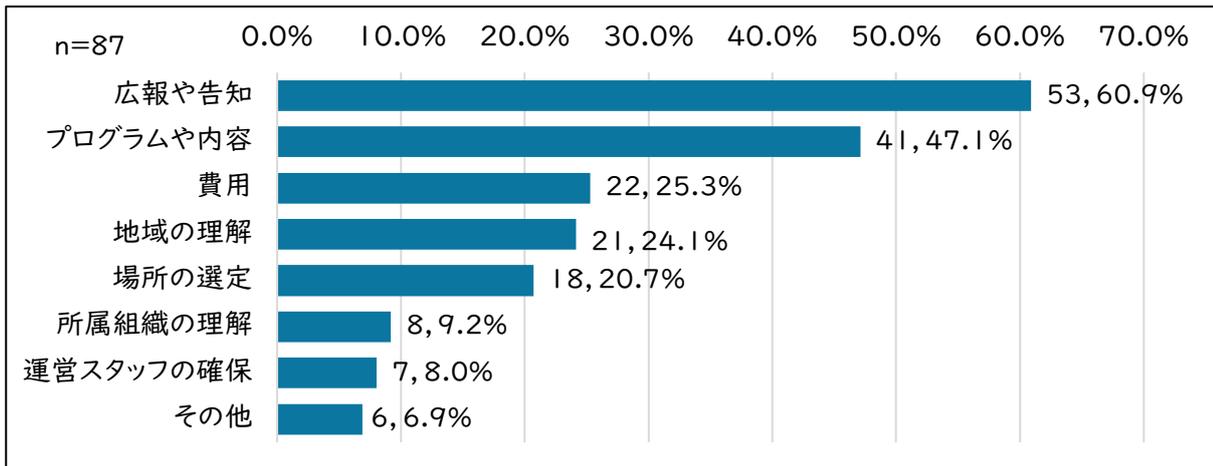
5.1.18.カフェの運営以外で協力してくれる団体【自由記載】

カフェ運営以外で協力してくれる団体	回答数	比率 (n=87)
ある	49	56.3%
なし	2	2.3%
未回答	36	41.4%
総計	87	100.0%

カフェ運営以外で協力してくれる団体があるカフェは49ヶ所であった。

主な協力団体としては、ケアプラザ、地区社会福祉協議会、医療機関等であった。

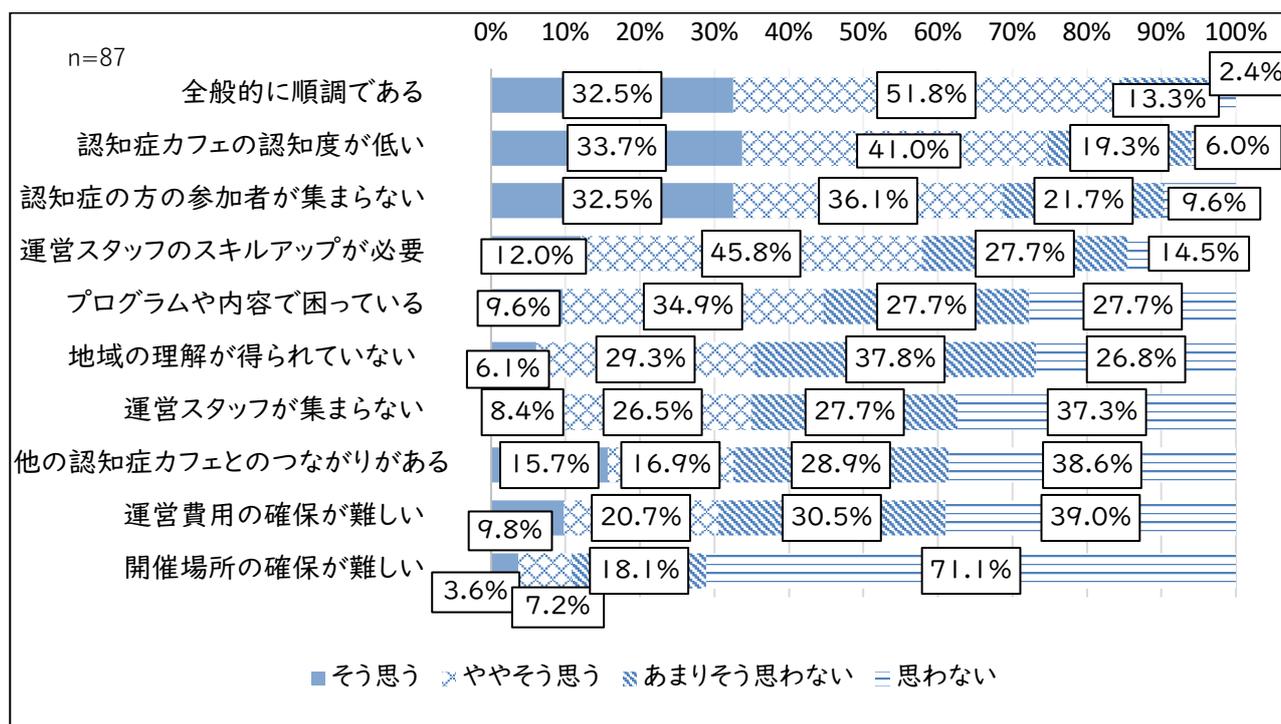
5.1.19.始めるにあたって課題となった点【複数回答可】 ※詳細は29ページ参照



始めるにあたって課題となった点は、「広報や告知」が最も高く(60.9%)、「プログラムや内容」(47.1%)が続く。

5.2.認知症カフェの運営の現状や課題

5.2.1.認知症カフェの運営の現状や課題

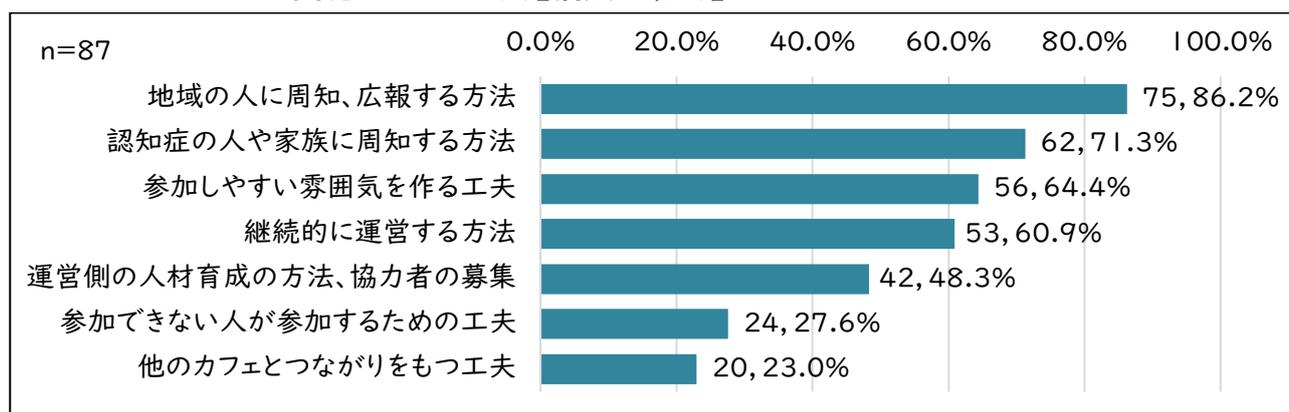


「全般的に順調である」は、「そう思う」または「ややそう思う」とした運営者が8割を超える。

「認知症カフェの認知度が低い」「認知症の方の参加者が集まらない」「運営スタッフのスキルアップが必要」は、「そう思う」または「ややそう思う」がそれぞれ74.7%、68.6%、57.8%であり、過半数の運営者が課題と感じている。

※認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問【自由記載】は30ページ

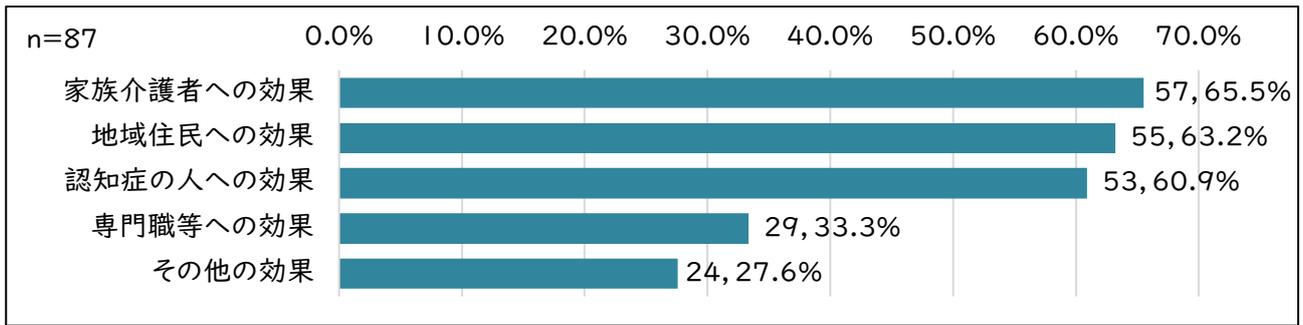
5.2.2.すでに実施している工夫【複数回答可】



すでに実施している工夫は、「地域の人に周知、広報する方法」が最も高く(86.2%)、「認知症の人や家族に周知する方法」(71.3%)、「参加しやすい雰囲気を作る工夫」(64.4%)、「継続的に運営する方法」(60.9%)が続く。

※詳細は31ページ

5.3.認知症カフェの効果【複数回答可】



※それぞれの効果について、何らかのコメントが記載されている回答の数を集計

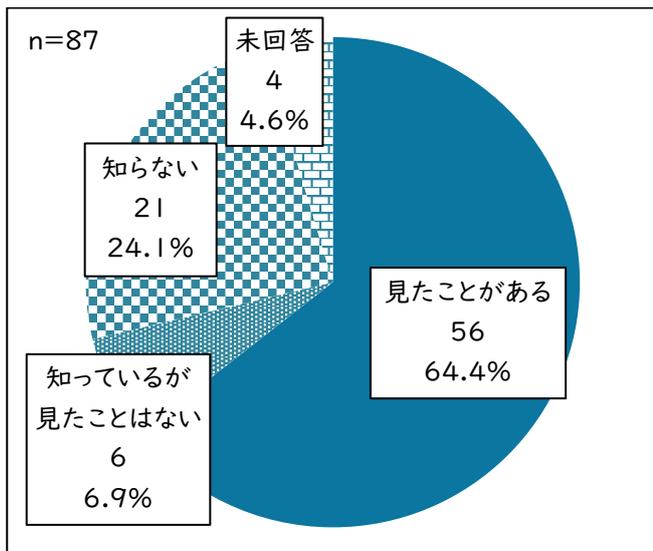
認知症カフェの効果は、「家族介護者への効果」が最も高く(65.5%)、「地域住民への効果」(63.2%)、「認知症の人への効果」(60.9%)が続く。

<効果に関する事例>(抜粋) ※詳細は38ページ

認知症の人への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔が見られたりする。自分で選んだり、役割を持ってありがたいと言われる機会になる。 ・いつも楽しみに来て下さる方がいます。外出の機会や出掛ける場所が出来たと言われます。 ・うつむき、目を合わさなかった方が微笑んで会話に参加してくれるようになった。ここへ来るのが楽しみと言ってくれる人が増えた。笑いが絶えない！時間が待ち遠しいと言っている。
地域住民への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人と接することは特別なことではなく、支え合うことだと理解を示してくれます。 ・認知症の症状や当事者の気持ちを知る機会になっている ・自然な形で、認知症当事者やその家族と会話する機会となり、認知症に対する理解が少しずつ深まる
家族介護者への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・お話しをよくお聴きすることで少し“ほっと”された表情になられる ・介護疲れの方が他者の介護談を聴き質問し、生演奏で唄い、「独りじゃない」と笑顔で帰宅された ・同じ境遇の方と友達になり悩みを打ち明けられる関係になっている。また配偶者の当事者が亡くなった後も、カフェが楽しいからと継続して参加してくれている方もいて、精神面のフォローに繋がっていると考えている。
専門職等への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なタイミングで適切なサービスへの移行が可能。初期の認知症の人をサポートする資源の一つとなる。 ・地域の方と認知症について検討できる ・参加者からの質問をそれぞれの専門職の得意分野からお話ができる
その他の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方を地域で支える(声をかける、サービスに繋げる、困っていたら助ける)一歩が生まれていると思います。 ・ボランティア・参加者・顔なじみになり「認知症になっても住み続けられるまちづくり」の一歩が築けてきている

5.4. 「HAMA OLE! (ハマオーレ) 認知症カフェの運営に関わるみんなの情報誌」について

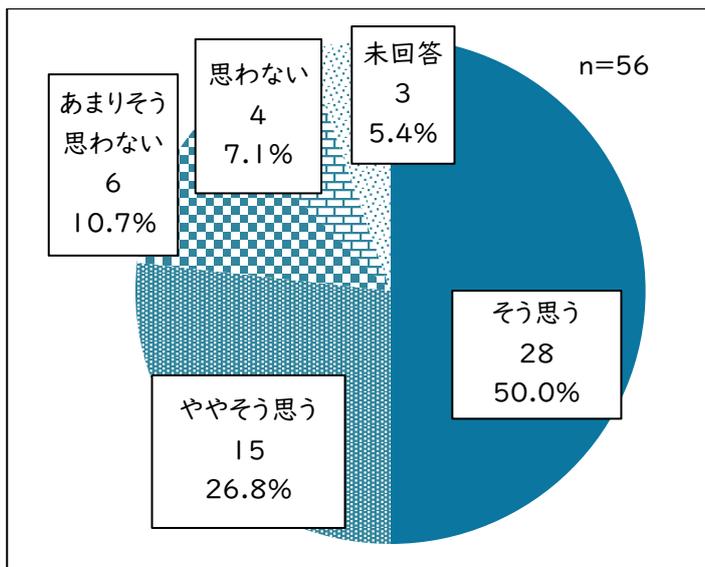
5.4.1. 「HAMA OLE! (ハマオーレ)」に対する認知度



「HAMA OLE! (ハマオーレ)」に対する認知は、「見たことがある」が最も高く(64.4%)、「知らない」が続く(24.1%)。

5.4.2. 「HAMA OLE! (ハマオーレ)」の有用性

回答者: 5.4.1.で「見たことがある」を選んだ方



「HAMA OLE! (ハマオーレ)」の有用性は、「そう思う」が最も高く(50.0%)、「ややそう思う」が続く(26.8%)。
※回答理由は 43 ページ

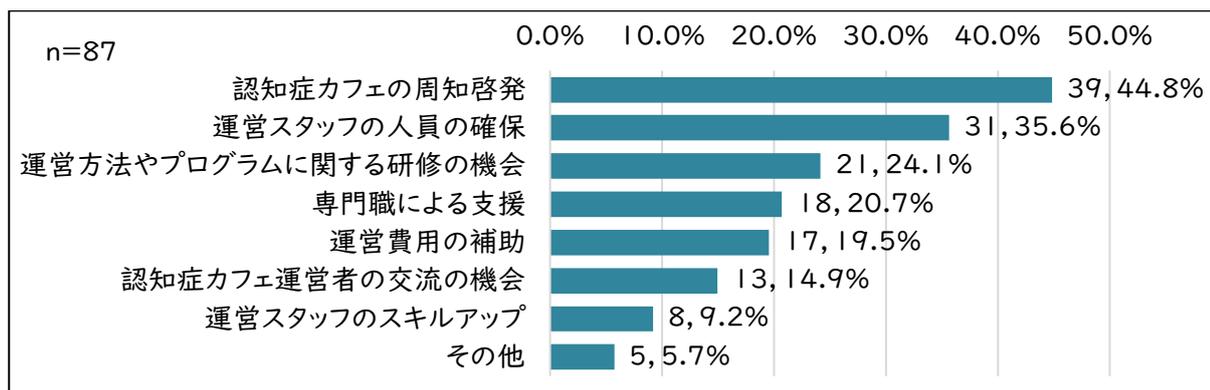
5.4.3. 「HAMA OLE! (ハマオーレ)」で取り上げてほしいテーマ【自由記載】

※詳細は 43 ページ

「HAMA OLE! (ハマオーレ)」で取り上げてほしいテーマ(抜粋)
民間のカフェとコラボレーションしている事例
地域に理解し受け入れてもらえる周知方法、必要な人への周知方法
継続のための工夫、スタッフの補強方法について
当事者本人が活動に参加している様子
認知症本人、家族が求めている事
認知症当事者が役割を持って参加する際の工夫について
当事者が活動していくためのヒントなど
施設やデイサービスで行っている認知症カフェではなく、地域住民が始めたカフェの特集

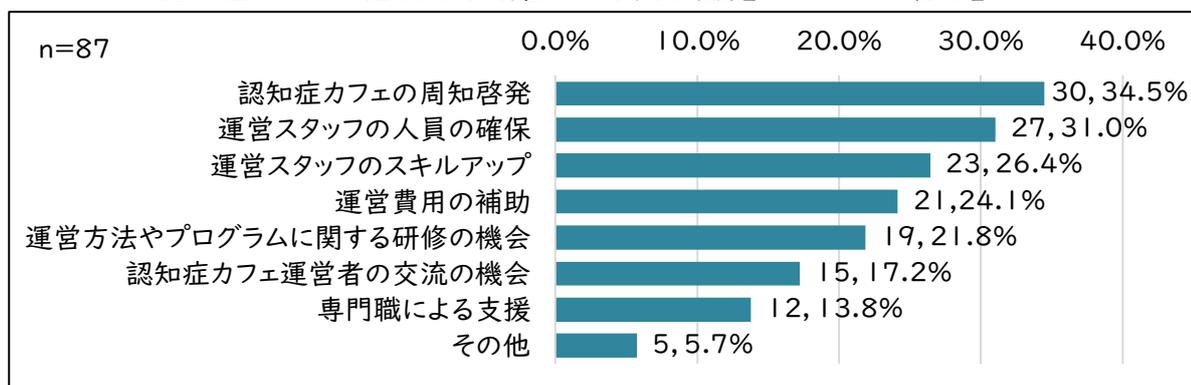
5.5.認知症カフェの立ち上げ・継続的な運営に必要な支援

5.5.1.認知症カフェの立ち上げに必要な支援【2 つまで回答可】



認知症カフェの立ち上げに必要な支援は、「認知症カフェの周知啓発」が最も高く(44.8%)、「運営スタッフの人員の確保」(35.6%)、「運営方法やプログラムに関する研修の機会」(24.1%)が続く。その他としては、場所の確保等が挙げられた。

5.5.2.認知症カフェの継続的な運営に必要な支援【2 つまで回答可】



認知症カフェの継続的な運営に必要な支援は、「認知症カフェの周知啓発」が最も高く(34.5%)、「運営スタッフの人員の確保」(31.0%)、「運営スタッフのスキルアップ」(26.4%)が続く。その他として、運営スタッフ同士の振り返り、場所の確保等が挙げられた。

5.6.認知症カフェの運営者向け研修で取り上げてほしいテーマ(一部抜粋)

※詳細は 44 ページ

認知症カフェの運営者向け研修で取り上げてほしいテーマ(抜粋)
認知症の方が楽しんで参加できるプログラムについて
専門職ではない一般の地域住民が多くかかわっているので認知症当事者への関わり方などを学んでほしいと思っている。
グループワークを中心に、開催店舗の活動状況を共有したい。参考情報を知りたいのはもちろんですが、グループワークを行う事で交流の機会となり、繋がりを持てることが望ましい
開催内容を共有したい
①みんなのお悩みの共有 ②認知症カフェと他の集まりとの違い ③地域と連携する・溶け込む方法
回想法の講座
若い世代にどうやったら認知症カフェを引き継いでもらえるか?

6. 横浜市における認知症カフェの実態調査に関する調査 調査の詳細

5.1.12. 運営スタッフ等の役割について 結果詳細

地域住民の役割(抜粋)
傾聴、話し相手
開催案内、定期的な声かけ、設営、気になる方への声かけ
コーヒー等飲食提供・話し相手
参加者
お話相手、お茶出し、受付、集金
当日の運営(設営、受付、お茶出し、おやつ準備、レク補助、話し相手、片付け)
会場準備・清掃 飲食の用意・片付け カフェへの参加
コーヒーボランティア:飲み物・茶菓子の準備、提供
カフェボランティアとして主体的に参加していただくだけでなく、お友達を誘っていただくなど横の繋がりを期待している
参加者の案内、コーヒー等の飲み物提供、折り紙指導、歌指導、将棋対戦相手、会場設営、認知症参加者のフォロー
参加者、手伝い 会場・飲み物の準備、お話し相手
カフェの内容検討、当日の会場設営・参加者の対応・飲食の提供など
地域住民の見守り・ハブ役を担い、認知症になってもなお地域で暮らしていくための住民同士の繋がりを意識の醸成、認知症啓発の中心となっている
企画、運営
パンフレットの作成
受付、会場設営、飲み物オーダー、買い物
配茶、レクリエーション補助、お話し相手、体操のモデル
カフェの準備・運営、参加者との会話対応、片付け
受付、会計関係、飲み物(コーヒー・煎茶)の提供
話し相手
困りごとがある方をお誘いする。参加者の方を徒歩で送迎
体操ボランティア、コーヒーボランティア
参加者であり、主催者。参加だけする方もいれば、準備などを一緒に行ったり、工作の講師をしてくれる方もいる。
一人暮らしの高齢者さんへの声掛け。お誘い(カフェへ)
カフェの設営・ミニ講座・広報
レクリエーション、食事づくり、口腔体操等
会場設営、受付、コーヒーを淹れる担当、レコード担当、広報(チラシづくり)、当日の司会、参加者との連絡
カフェの準備、片付け
当日の本人の対応、一緒に楽しむ
当事者の方を誘い一緒に参加する・話し相手・手作りケーキ、テーブル花の準備提供 等
本人とその家族にとって居心地の良い場所の提供
回想法参加 カフェお茶準備
参加者が楽しめるよう努める
会の運営、見守り
会場設置 お茶の準備・片付け
主に利用者さんと一緒に行動したり、お茶タイムのお世話

専門職の役割(抜粋)
支援につながっていない方への支援方法を運営メンバーと一緒に考える。
参加費管理、事前準備、ウクレレ演奏
参加者 意見者 司会者
認知症に関する情報提供、相談アドバイス
ファシリテーター
会場設営、認知症参加者のフォロー
参加者、手伝い、認知症の方の送迎
必要物品の準備・管理、内容検討、出演者の依頼・対応、介護等相談対応
場所を提供してくれている薬局との調整や連絡、当日の進行、飲みものの準備
介護サービスにつながらないサービスのご利用のない方への見守り、家族からの傾聴、居場所づくり
参加者同士の交流促進やアクティビティ参加へのフォロー、及び日常生活等の相談対応
カフェで住民とのつながりを作りながら、相談先・サポート先として連携
講話の準備、介護相談
誰もが楽しめる雰囲気をつくる
プログラム作成、お茶・お菓子の買出し、当日の進行、受付、参加費管理
カフェの運営・見守り、参加者の簡単な相談
季節の情報をお伝えする。新しい情報を分かり易くお伝えする。
レクリエーションの企画運営、場所の用意・片付け、カフェでの傾聴
開催周知・イベント企画
運営および補助。
情報等の提供
カフェの運営、介護相談への対応
相談対応
相談コーナー担当(随時)
各専門職の立場から、その場の相談への対応、話しやすい雰囲気づくり、参加者同士の交流が持てるようにする。
介護の相談。介護者へのアドバイス。傾聴。サービス事業所へ橋渡し
包括支援センター広報紙に毎月掲載 健康情報など提供
情報提供
認知症に関するミニトーク担当
年度計画を立て、回ごとのミニ講座担当の職員への手配、事前準備、設営、司会進行を行う。
初回利用のアセスメント、家族とボランティアの調整、企画等
介護相談等受けたときに対応
新しい制度の情報提供や使い方、認知症介護者へのアドバイスを行っているが、場合によっては包括へ繋いでいる。
ファシリテーター、認知症に関する情報提供、介護相談
当事者の方へ情報提供及びスタッフへのアドバイス
ミニ講座
体操指導者 毎回体操指導 脳トレ指導(歌や指を使って) 音楽療法士(歌、楽器を使っている指導)

その他の人の役割(抜粋)
参加者への声掛け
参加者
音楽演奏など
参加者同士の交流促進やアクティビティ参加へのフォロー
参加者、特にリピーターには折に触れて運営に参加、発言などをお願いしています。お客様ではなく、みんなで作っている場所だと認識いただきたい。
ミニ講座等の企画
チラシの作成・配架
参加者が安心して参加出来る雰囲気づくり
会場運営の手伝い、事前準備
運営
茶菓子の配膳下膳
参加者の方への傾聴
開催周知・当日受付
後方支援
カフェに参加の呼びかけ・健康・予防などの指導
認知症予防カフェの運営
カフェの準備、当月の運営。プログラムの検討・実行など
連絡調整等・事務局
カフェの準備や時間内のアテンド。片付け。
ピアノ伴奏や、話し相手など、それぞれの得意分野で役割を担っている。
一参加者として、当時者の方たちとの交流を行う。
初回利用のアセスメント、家族とボランティアの調整、企画等
情報提供・当事者の紹介
皆でワイワイ活動しています
楽しくお話しをする
口腔体操など
ラジオ体操・ビンゴゲーム等
お菓子類の用意、当日の記録(参加者の人数等)参加者の相談相手、認知症の方の相手
薬剤師(薬の飲み方、熱中症対策)等その時々にあった講法
当日の受付等

5.1.19.始めるにあたって課題となった点 結果詳細

始めるにあたって課題となった点(抜粋)
担い手不足、担い手育成
①定期的な開催と開催場所の確保は重要。②主たる目的を明確にし、参加者のニーズと合わせる事。ミスマッチを防ぐ。③カフェでどんな話をしているかを知ってもらう広報も重要。(特にカフェの数は増えたが、それぞれカフェの特徴がある)
協力してくれるボランティア探し・コロナ禍での縮小開催からのリニューアル
折り紙や将棋をプログラムとして始めたが参加者がなかなか集まらなかった。歌のプログラムを始めると参加する方が増えた。参加者が増えると活動の趣旨を理解していない参加者が増え理解を進めるのに苦慮している
地域に対する認知症カフェの理解と認知
認知症カフェというネーミングから拒否的な反応を示すなど、理解・受け入れが難しい方が思っていたより多かった
今も研鑽中ですが、医療機関で開催するという特性上、コミュニティサークルの場所としてお話をするだけで成り立つ。という訳ではありません。健康や介護、薬に関する情報などを定期的に配信しています
地域ケアプラザが開所して、5か月目に認知症カフェを始めたので、広報や告知面が十分ではなかった。
開催に関し、地域住民の見解が異なり、周知の方法について検討を要した
地域住民の参加人数が少ない
ボランティアの募集や育成
担い手が主体となって運営に携わること、参加者への声かけ・話しかけ
交通の便、費用がかからない、定期的にご利用できるなどの場所の選定
開催場所と備品収納場所が異なるため、毎回の備品運搬が負担
担い手募集
駅から近く利便性のよい場所がなかなか見つからなかった。
参加者を集めるための告知等
会場はこの6年間で3箇所になりました。
コロナ禍にスタートしたため集客がしづらかった。
当事者の参加
カフェの周知・講話の内容
「認知症カフェ」として事前の周知をしていく方法を考えること
地域の方がどこまで参加していただけるか。
同じ地区に2箇所となり、日にちを変えて開始している。
同じメンバーが中心になっている。新規の参加者が少ない。
当初は運営費用がなくコーヒー器具も買えなかったため、運営スタッフ個人の物を借りて運営を始めた。
まず、プログラムの名前を何にするか。次に内容で、週替わりで体操、音楽、手作りなど試しましたが、2時間の中で体操、歌、カフェタイムや脳トレも含め、少しづつ取り入れるようになり、これが人気があり長い間定着しています。
メインとなる担い手
当事者の方や介護者の方の参加をどう増やすか
認知症カフェに参加くださる本人と家族を見つけること。
認知症カフェとしているがご本人は気づいていない場合が多く、広報もしにくい。たくさんになってしまっはゆっくりしてもらえないため
認知症の方が自分ひとりで参加できないことが多い。
身体筋力の低下防止、初めての人との交流の場づくり

5.2.1.認知症カフェの運営の現状や課題 結果詳細

認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問(抜粋)
スタッフの高齢化、新しい担い手がない事。定期的な開催の負担。
今まで地域のサロンに参加できていた認知症の方は、自然と地域で見守る体制ができていたが、コロナ禍でサロンの数が減少、新しく認知症カフェを開催しても、認知症の方が新しい環境に対応するには困難な場合も多いため、いかに入りやすい雰囲気を作るかが課題です。
認知症当事者からの参加が少ない 歩いてこれる人しか来れない
認知症当事者の参加者が増えたことによってボランティアスタッフのスキルアップも必要になってきている。また、症状の進行状況によって参加が難しくなるケースもあり、常に新規の参加に向けて働きかけをしていく必要がある。包括支援センター職員と連携しながら相談対応で関わっている方を中心に当事者への広報活動を行う必要がある。
担い手が高齢で負担感が大きい。若年層の参加が少ない。
地域で認知症カフェの認識があまり広がらない。認知症の本人家族の積極的な参加があまり見られない。
参加者が集まらない。認知症当事者や家族等の参加がない。なかなか周知がすすまない。
周知活動が広がらず、決まった方が来られるので、幅広く周知したい。
地域ボランティアの活用
認知症当事者の集まりが少ない
当カフェの参加者の多くは元気な地域住民であり、すでに関係ができている元気な地域住民同士の関わりが強く、認知症当事者や家族と元気な地域住民との交流が育みづらい。
ご近所の方同士での口コミで参加される方が増えてきているが、認知症の方の参加を増やすにはどのようにして行けばよいか今の課題点。
協力をいただいているボランティアさんが高齢化している。次の担い手を探すことに苦勞している。
参加者の人数が少ない時がある。周知方法や参加しやすいなどの工夫が必要と感じている。
場所の確保が課題です。出来れば、慣れた場所で、定期的開催が出来るような支援が欲しい。
利用者の人数をより増やしていきたいと考えています。また、当団体のメンバーの高齢化が進む中、ボランティア活動の担い手としての若年メンバーの確保も課題となっています。
スタッフの高齢化に伴い新しいメンバーの確保。専門職の方の協力がもっとほしい。
カフェの存在を知ってもらうために更なる周知・広報が必要
今は開設時からのボランティアが協力してくれているが、今後ボランティアの確保をどのようにしていくか課題に思っている。
認知症の介護をされている方に、情報が届きにくい。
認知症当事者や家族の参加が少ない
長年行ってきていることでの、マンネリ化と、コロナ後の影響で参加者の増加がみられないこと。
天候により、参加の人数が左右される。施設が奥まった場所であるため足を運びづらい方もいる様子。
同じメンバーが中心になっている。内容が特になく話をするスタンスである。内容やテーマがあったほうがいいのか検討をしている。
私たちカフェは民生委員・地域の役員など民間の団体で運営しています。地域の居場所として気軽に立ち寄り、さりげないおしゃべりの中で、何か心配など気づいた事があった時は関係機関に繋げています。
コロナ前は出入り自由、予約なし、人数の制限もなかったが、まだその状態には戻っていない。
本来認知症カフェに参加してもらいたいような人の参加が少ない。
ボランティアの高齢化です。あと数年でほとんど80歳代になります。若い世代はみんな働いています。

5.2.2. すでに実施している工夫 結果詳細

(ア) 認知症の人や家族に周知する方法(アイデアも含む)【自由記載】

認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問(抜粋)
総合相談の中で、地域資源として案内
事前の声かけ
包括相談や地域の集まりへ行った際に周知
認知症サポーター養成講座での告知
併設訪問看護ステーションの利用者や地域包括支援センターからのご紹介。カフェにご相談にいらした方へのお誘い、近隣住民からのお声掛け
チラシ配架
媒体(HP、SNS)での広報、および回覧板など紙での広報の両方が必要。
地域ケアプラザ併設のデイサービス利用者や家族に対して広報・周知を行っている
包括支援センターや居宅ケアマネと連携し当事者への周知を行っている。
パンフレットを配布。町内会の回覧や掲示板、もの忘れ外来、地域ケアプラザなどに配布。
相談窓口での個別の案内。病院でのチラシ配架。
介護相談などの時に周知。
介護保険申請や相談に来た際に紹介している
隣接する医療機関が脳神経内科のためポスターを院内外にも掲載
相談対応時、該当しそうな方に認知症カフェを案内している。
総合相談やケアマネージャーへ周知
スタッフの個別声掛け、近隣関係者からの紹介
民生委員や地域包括支援センターより個別に情報提供するようにしている
家族の方と認知症の人とでチラシの内容をかえている。
サロンなど地域の活動に参加した時や広報誌で周知・相談時に周知
地域ケアプラザが対応している
区役所のチラシ掲載に協力・介護者のつどい等にて周知
地域ケアプラザ主催「介護者の集い」に参加しお誘いする。地域ケアプラザ職員さんが紹介
広報紙・チラシ・包括職員に直接オススメしてもらう等。
病院受診時にご案内・SNS・メール
個別の声掛け
若年性認知症支援コーディネーターが個別に案内
個別相談対応時に案内
地域ケアプラザとの連携強化
毎月、町内に配布する広報紙への掲載。
広報誌、チラシ 職員や民生員によるお誘い
介護保険の認定申請を受け付けるので、その際認知症の家族には紹介
毎月家族に郵送しているお手紙の中に入れていく。
地域ケアプラザ広報紙へ毎月掲載し自治会等へ回覧している
地域ケアプラザの広報紙及び地域の回覧板で周知
口コミによる声掛け、知人が一緒に来るなどが効果的
地域ケアプラザの広報紙、Instagram

(イ) 地域の人に周知、広報する方法(アイデアも含む)【自由記載】

地域の人に周知、広報する方法(アイデアも含む)(抜粋)
地域ケアプラザ広報誌掲載
参加者に友人の参加を促す
「認知症予防」も同時にうたい、高齢者を中心に多くの方に興味を持って頂くようにしている
媒体(HP、SNS)での広報、および回覧板など紙での広報の両方が必要。
ホームページ掲載、チラシの配架・配付
広報紙、SNS等を活用
歌の参加者が多い為、それ以外の活動に参加できる地域住民へ周知を行っている
パンフレットを配布。町内会の回覧や掲示板、もの忘れ外来、地域ケアプラザなどに配布。
広報紙、チラシの掲示・回覧
毎回チラシで地域へ周知、様々な事業の時に案内
地域の集まり(体操教室やサロン等で周知したり、事業開催時紹介したりする)
横浜市カフェ一覧に掲載。地域ケアプラザの健康イベント時にもお声掛けいただいている
地域サロンの出前講座等へ周知
広報誌、HPでのご案内、地域サロン等での案内
町内回覧板、1度でも参加された方には毎回チラシをポストイン
ポスターやチラシの配布などにより周知するようにしている
サロンなど地域の活動に参加した時や広報誌で周知・相談時に周知
チラシを近くの地域ケアプラザ、区役所、社協に置く。チラシを鉄道沿線の地域ケアプラザへ送付
チラシ掲示・参加者への日程表の配布
区役所のチラシ掲載に協力・自治会などで周知
自前の広報紙(毎月3,300枚ポスティング)と地域ケアプラザの広報紙による広報
通信を発行し、ロコミ・地域ケアプラザに置くなど
活動の日は次回の案内のチラシを作成し、ロコミなどでも広げている。
広報紙・チラシ。
SNS・メール
連合や掲示板に掲載し広報する
ポスターを作成して、他サロンを回り周知している。
出前講座などでの周知
相談者への案内。地域のサロンでの周知。
広報誌、チラシ 声掛けによるお誘い
週のはじめにベランダでのフラッグの掲示をしている。
自治会の掲示板への貼りだし
地域ケアプラザ広報紙へ毎月掲載し自治会等へ回覧している
地域ケアプラザの広報紙及び地域の回覧板で周知
自治会内、地域ケアプラザ及び薬局等への掲示を依頼している。
チラシの作成(地域ケアプラザに配架依頼)
既存のカフェを通じて。
院内にポスターを掲示
広報誌にのせてもらう 来ていただいている仲間同志の方々からロコミ
各町内会にパンフレット配布。町内掲示板に掲載依頼。
連合町内会にチラシ回覧してもらい、掲示板に貼ってもらう。

(ウ) 運営側の人材育成の方法、協力者の募集(アイデアも含む)【自由記載】

運営側の人材育成の方法、協力者の募集(アイデアも含む)(抜粋)
振り返り会における気付きの共有
介護関係 リハビリ関係者を自然に参加してもらうよう促す
地域の多世代に向けた認知症サポーター養成講座を行う
専門職や介護を終えた人でケアラー支援の意欲のある方へ声掛け
地域ケアプラザ他事業参加者への呼び掛け
訪問看護ステーションの認知症看護認定看護師が人材育成。民生委員の協力で募集。
他の認知症カフェの見学
認知症カフェ開始前にボランティア講座を実施
認知症サポーター、キャラバン・メイト研修に参加
運営スタッフへ認知症サポーター養成講座の開催
区役所・区社協ボランティア募集 個別の声掛け
認知症サポーター養成講座に参加された方に声をかけている。
地域ケアプラザの広報紙でボランティアの募集
地域ケアプラザ主催「チームオレンジ」
講座等を開催し、みなさんで知識を得ることができ、充実したものになっている。
デイサービスのボランティアに打診
ボランティアさんに研修に参加をしてもらったり、役割をもってもらうように担当者決めたりしている
キャラバン・メイトで運営しておりそのスキルアップ
チームオレンジとの連携
地域ケアプラザの広報紙及び地域の回覧板で周知
希望者は各種研修・講習会への参加している。
法人グループの認知症方針を作成し、職員のキャラバン・メイトの育成、認知症チーム会議での取り組みの推進
既存のカフェを通じて。
定期的なスキルアップ研修、ボランティア講座での周知
行政などの主催する研修会や交流会に参加している
認知症サポーター養成講座とボランティア養成講座を兼ねる。
認知症デイスタッフの参加
認知症カフェ回想法見学受け入れ 回想法のスキルを習得するための実習
自分の知り合いの方でこのカフェになじめる方を探す。めったやたらに一般募集していない。
認知症サポーター養成講座などで周知する
広報誌に募集をのせている 声かけを常にしている
ボランティアはクチコミで募集
研修会に参加

(エ) 継続的に運営する方法(アイデアも含む)【自由記載】

継続的に運営する方法(アイデアも含む)(抜粋)
参加者への事前連絡
問答無用で開催決定しているので問題ないです
型にはまらない内容。時代に合った興味を引く企画を練り実行する。
年度内の開催予定をホームページやチラシで告知
ボランティアスタッフを含め役割分担をすることでスタッフ一人にかかる労力を抑えている
訪問看護ステーションのスタッフや民生委員が協力して課題に取り組んでいる。
地域ケアプラザが主催のため継続できている
場所を提供して下さる薬局との関係性を維持
会場が薬局のため、会場にかかる費用がないためランニングコストがかかりにくい
参加出席時に来月の参加予約を確認している。
毎月実施している
毎月第1金曜日の運営会議、例会終了後のミーティング、役割分担
コミュニティハウス職員交代で運営参加するようにしている
参加者がまた来たいと思ってもらえるよう、色々なレクリエーションをしている。
参加したい人が楽しめるようにカフェを運営する
参加してみたいくなる様な行事内容
運営費の確保
地域のコミュニティカフェと連携し、ボランティアは無理をしないで協力し合う
講座を取り入れて勉強会等も行っている
年間の予定をたてて事前準備をしっかりとる
毎回楽しい雰囲気作りを心掛け、参加者数の確保・維持に努めている
費用の確保をし、スタッフに欠員があっても開催出来る様にシステム化している。
核になるメンバーが毎回出席し、会を開催し続けて定着させる。
地域のグループホームとの交流
地域ケアプラザからの募集案内
毎月、同じ週の同じ曜日に必ず開催。
ボランティアさんに研修に参加をしてもらったり、役割をもってもらうように担当者決めたりしている
地域ケアプラザの協力・助成金の申請
定期的な開催とするため、法人全体で分担する
チームオレンジ定例会などでカフェの運営について検討中
毎回、司会者を決めてその人が中心となってその日のカフェを進行・運営する。
スタッフや利用者の顔ぶれが安定しているので、アットホームな雰囲気です。
参加者も含め、基本的に持ち寄りで、ボランティアの負担を減らす
家族の負担を減らしながら参加できるように地域ケアプラザがサポートする
スタッフの負担を少なくするために、当番制で運営している
無理をせず参加者と同じ目線で活動
参加人数が少なくてもとにかく続ける。
認知症個人の参加時の振り返り票を毎回記載
カフェ終了後に今回の反省と次回の内容を検討していく
基本(音楽、体操、脳トレ)は毎回実施 季節の行事を毎月実施
ボランティアは当番制にして負担をかけすぎない

(オ) 参加できない人が参加するための工夫(アイデアも含む)【自由記載】

参加できない人が参加するための工夫(アイデアも含む)(抜粋)
遠方に住む方は車で送迎
オンライン開催やや坂道の援助やお誘いメッセージ
イベント時は、Zoom、YouTube などを利用したハイブリッド開催。
包括支援センター職員より電話などでの働きかけをしてもらっている
送迎の工夫をする。声掛けをする。
送迎ボランティアの手配
リモートでも行っている
裾野を広げ、MCI の方の参加も可能にしたり、特養の入所者の参加もできるようにした
民生委員や地域包括支援センターより情報提供するようにしている
ボランティアさんや民生委員からのロコミでの参加。
サロンなど地域の活動に参加した時や広報誌で周知・相談時に周知
電話やはがきで、様子を聞いて誘うなど
運営母体で発行の会報
ご家族と一緒にご参加いただいたり、タクシー手配など
居場所の声掛けをし、参加できない理由を探る
身近な地域の場所以出張版を開催
開催場所の増加
参加出来ない希望者に紙面で情報を伝える。
外来での声掛け、認知症パスの活用
本人を連れてくることのできるため、一人にできないと悩んでいる家族も来ることのできる
ロコミ・カフェの楽しさを伝える
ボランティアがお迎えに行ったり、時間を失念している方に電話をしたり…
地域の人同志で声かけしていく
知人からの声かけ
予約制

(カ) 参加しやすい雰囲気を作る工夫(アイデアも含む)【自由記載】

参加しやすい雰囲気を作る工夫(アイデアも含む)(抜粋)
話しやすい環境作り、話題となるものを準備
誰をも大歓迎!そして必ず繋がりを見つけて共有できる人と座る
認知症アドバイザーの先生を毎回お呼びして、アットホームな雰囲気作りをしている
1対1ではなく、参加者全体がなじむような声掛け。
夫婦・親子で参加可能
プログラムの充実化
複数プログラムを同時に行う事で活動を選択することが出来るようにしている
くつろげる環境づくり。
口コミで広がるような会場や内容の工夫
催しの開催 スタッフの声掛けなど
処方箋を持ってくる患者さんに認知症カフェのご案内ができる
男性の参加者がいることを伝え参加のしやすさを伝える
体操やボッチャ、歌唱など、だれでも参加できるプログラムの追加
外見は地域住民の普通の集まり、運営側は見えない工夫と相談できる旨、情報提供を
参加者へ声掛けするようにしている。パン販売の実施をしている
ボランティアさんにまずは席に座っていただき、話やすい場をつくっている。
サロンなど地域の活動に参加した時や広報誌で周知・相談時に周知
参加者と一緒にプログラムを考える
カフェの雰囲気づくり、話しやすい環境づくり
参加者に寄り添い、楽しい雰囲気づくりを心がけている
当事者と、介護者と、地域の方皆で前半レクリエーションに取り組んでいる。スタッフ含め皆で楽しみながら、当事者理解を進める目的。
参加者への積極的な声掛けや、歌や音楽の生演奏を取り入れている
運営側が参加しやすい様にルールを決める。その上でルールを参加者に周知する。
開催時間内は出入り自由
会の最初の方には新しい方が話す時間を多く設ける等。
無料である自由なおしゃべりの場とする
いつ、だれが来ても参加しやすい内容や対応。
認知症男性の方が話しやすい雰囲気を作っている。
来訪者にプログラムの希望を聞く。またコーヒー淹れの体験をしてもらう。
簡単な体操、指の体操、コーヒータイム、脳トレクイズ、棒体操、口腔ケア、歌と、内容豊富でおしゃべりもあり、あっという間の2時間で、皆さん楽しんでいる。
カフェ前後の振り返りの徹底とチーム会議による職員研修
ボランティアとの開始前、終了後のミーティング
手作りケーキやテーブル花など、工夫して魅力を高めている、話題が広がる効果がある。
参加者へのスタッフの対応
運営側と参加者の垣根を作らないようにしています
名札の設置、参加簿シール貼り、テーブルクロス、美味しいケーキ、季節の和菓子
スタッフが本人や家族に声かけする。スタッフ同士が楽しむ。
事前にカフェに対するニーズを確認する。カフェでは少人数でグループ分けをして1人1人が発信しやすいようにする。
誰でもすぐに楽しめる内容を考えていく

(キ) 他のカフェとつながりをもつ工夫(アイデアも含む)【自由記載】

他のカフェとつながりをもつ工夫(アイデアも含む)(抜粋)
受付時に地域内のつどいの場の案内チラシを渡す
イベントについてお知らせする。こちらからも参加する。←知っていただく為に、年1回イベントを自主開催しています。
オレンジネットワークに加入。
お互いのスタッフの行き来ができればと思っている。
今年度より、保土ヶ谷区複数カフェ運営者で、相互見学の取り組みを進めている。
当カフェ参加者による新たなカフェが別地区で開設され関係している
繋がるニーズがスタッフにない。居場所としての開催を目的にしているため
リモートでつなぎ交流
職員、または参加者も一緒に近隣のカフェに見学に行く。
他のカフェの方との交流会などやってみたい
運営方法などに関して連携を取りたい
他のカフェの見学参加や、日常的連携
既存のカフェを通じて参加者やボランティアが集まっている。
他のカフェのスタッフも口コミでボランティア参加して下さっている
当事者が、同じ地区の他の認知症カフェにも参加できるようにしている
地域ケアプラザが関わっているカフェを紹介するなど。
今の所他のカフェとつながりを持っていない。
キャラバン・メイトの集いへの参加
開催当初は他の認知症カフェも見学に行きましたが、現在はつながりはありません
情報交換を常に行っています
つながりの必要性を感じない。それぞれのカフェでできる事をやれば良い

5.3. 認知症カフェの効果

(ア) 認知症の人への効果の事例・内容【自由記載】

(ア) 認知症の人への効果の事例・内容 (抜粋)
人と話す事で明るくなった、活気が出た。
孤立防止に大きく効果があると感じている
認知症の方はお話をする場がないと言い、ここに来るとみんなが話を聞いて受け入れてもらえることに、喜びを感じてくれています。
介護者が認知症を正しく理解し特徴を知ること、ご本人の穏やかな暮らしをサポートできる。
参加を楽しみにしてくれている
歌が好きな当事者の方が参加され楽しんでいる様子がみられる。介護サービスを使うようになって疎遠になった近隣住民と一緒に活動する事が出来ている。
居場所づくりができる。適切なタイミングで適切なサービスへの移行が可能。身近に理解者が増える。
楽しく参加してもらえる場所になっている
参加者との繋がりを新たに持てる事
自宅(家族)や施設(支援者)以外の人と交流ができる場所があることで、気持ちの切り替えや同じ悩みの共有ができる
おしゃべりしたり、歌を歌ったり、体を動かしたり、普段会わない人と楽しい時間を過ごしている
デイサービスには行きたくないという方が、カフェには来てくれている。又、デイサービスにつながった人もいる。
既存のデイサービスへ繋がりにくい方が、定期的にケアマネと一緒に参加されることで、サービスに繋がることが出来た
得意なピアノを笑顔で演奏⇒「家ではこんな笑顔観れない」とご家族の感想
サービスに繋がらない当事者の見守りになっている。
一緒に歌を歌ったり、他の参加者と交流することにより、笑顔が増えた
参加者の意見として、聞くこと話すことを主としていないので気軽に参加できるとの意見を頂いている。
お話をする、歌を歌うなど、本人が笑顔で楽しんでいる様子が伺える。
若年性認知症当事者が運営に協力いただくことで活動場所の確保及び本人の自信回復につながっている
初めは消極的だった方がだんだんと積極的に楽しんでくれ、継続的に参加してくれている。
本人と家族が参加してくれている 継続して参加して楽しみに居場所となっている
カフェの中で役割を果たすこと、相談に結びついたこと、地域の人との交流、おしゃべりができること
家族の方から、サロンに参加してから明るくなったと言われることが多々あります。スタッフが充足していることで、個別の対応を丁寧に行うことができているので、満足感を感じていただいているようです。
認知症の方にボランティアで参加してもらうことによって、その人のやりがいを与える。
男性当事者の笑顔や会話がみられている。家族の居場所として大変喜ばれている
歩いてこられる認知症の方が少しずつ明るくなってきている 居場所として確立されている
いつも参加してくれるメンバーがいるので、居場所になっている
認知症の方は、カフェに来て歌や音楽を聴くと和やかな顔になる。
独居で認知症の方にとって、毎週参加することで孤立を防ぎ、その方の変化に早く気付くことができる。
笑顔が見られたりする。自分で選んだり、役割を持ってありがたうと言われる機会になる。
とてもよくお話をして、楽しく過ごしている
一般の参加者と積極的に会話を楽しんでいます
いつも楽しみに来て下さる方がいます。外出の機会や出掛ける場所が出来たとされます。
毎月ご家族でカフェに参加するのを楽しみにして頂いている
うつむき、目を合わさなかった方が微笑んで会話に参加してくれるようになった。ここへ来るのが楽しみと言ってくれる人が増えた 笑いが絶えない！時間が待ち遠しいと言ってくれている

(イ) 地域住民への効果の事例・内容【自由記載】

地域住民への効果の事例・内容(抜粋)
あそこに行けば認知症に詳しい人がいると聞いて来る人がいる
認知症の人と接することは特別なことではなく、支え合うことだと理解を示してくれます。
ボランティアの活動機会に繋がっている
皆さんの居場所の一つとなっている。独居高齢者などの参加もあり
認知症の方と一緒に活動する事によって身近に感じてもらえることが出来ている。
偏見が減り、共生社会を目指せる。孤立、孤食予防になる。認知症予防になる。
集いの場へ参加する機会。認知症への理解
認知症の症状や当事者の気持ちを知る機会になっている
認知症に関する啓発
お住まいが近くだったり横つながりができお顔の見える関係ができ、一緒に帰られたりとしている。
参加した地域の方が初めはプログラム後「ところで認知症の方はどこに?」と言っていたが回を重ねるうちに理解が深まったと思われる。
毎回休まず参加される方が多い。男性の方も参加している
自然な形で、認知症当事者やその家族と会話する機会となり、認知症に対する理解が少しずつ深まる
参加された方の口コミで人数が増えてきている
認知症の方がすぐ近くで暮らしていることがあたり前という意識をもっていただけている(ボランティアのみなさん)
認知症についての正しい理解 お互い様で助け合う
毎回参加される方も増え定着しつつある。
積極的に認知症イベントへ参加するなど、認知症への意識・関心が高まっている
認知症問わず、皆が楽しむことが出来ている。
気軽に集まることができる場所があると認知され、直接誘っていない人からも参加したいと連絡が来る。
コロナ明けから参加人数が増加しており、地域交流の場を提供出来ていると思います
会のはじめに、ミニ講座・介護者としての話などを聞いてもらうようにし、認知症及び認知症の人への理解を深めている
認知症予防に結びついている(参加すること、講話)
認知症の理解が深まっています。
子育て世代なども巻き込んでコミュニティの場となっている。
非日常な時間を過ごしていただく事で楽しみを持っていただいている。
高齢独居の方のふれあいの場になっている。
周囲に認知症と思われる人がいたり、気になる様子を見たときに、相談に来る人が増えている。
認知症への理解が進む
地域の方から、こういう交流の場があることを歓迎されている
ボランティアとして関わって下さる方が増えた。
居場所が増えたことでの安心感(人が少ないことでの安心感)
「他の方の話を聞くと参考になる。」「知りたかったことが聞けて安心した」などの意見があった。
認知症の予防的な知識や体操、歌、ゲームなど娯楽の場を提供し近所の方との気楽なおしゃべりを楽しむ。
友人同志お互いに声かけしながら楽しみに参加されています
相談に来る(自分の事、家族の事それぞれ)安心して相談できる場であると話される
外出する機会が多くなって来た カフェに来た友人ができ道で会ってあいさつができる喜び 同じ思いで来て いる人がいるのでこの時間がとても大切です
認知症についての理解が深まり、接し方がわかる。

(ウ) 家族介護者への効果の事例・内容【自由記載】

家族介護者への効果の事例・内容(抜粋)
本人が参加する事で介護を休む時間となっている。
介護を経験した家族との交流を生み出した
介護する方の気持ちに寄り添い、話を聞いてもらえることで、「ここに来ると具体的なアドバイスがもらえ、気持ちが楽になります」と聞かれます
お互いの経験を気兼ねなく話しができる
レスパイトすることが出来ているのではないかと感じる。
孤立予防になる。同じ立場の家族に相談ができピアサポートになる。精神的な介護負担の軽減になる。
介護についての相談ができる所との認識
認知症が疑われる症状が出ている家族について悩んでいる人が思いを吐き出せる場となっている
他で言う機会のない話ができる場所
お互いの立場を話され、情報共有されている。居場所としても活用されている。
一人で出かけられなかった方が、家族が一緒になくても参加できるようになりレスパイトに繋がっている
家族が介護を抱え込み抜き差しならなくなっている状態から、話せる場所や人のある状態へと進めるようにサポート
認知症の方を連れた夫婦が参加されたことがあった
専門家に相談するきっかけとなり、介護保険のサービスを利用するきっかけとなる
ボランティアの中には、現在介護中の方や介護を卒業した方がいるので、家族に対してやさしく声をかけてくれており、話もはずんでいる。
介護家族が孤立しないで、体験を共有できる場となっている
お話しをよくお聴きすることで少し“ほっと”された表情になられる
同じ境遇の方と友達になり悩みを打ち明けられる関係になっている。また配偶者の当事者が亡くなった後も、カフェが楽しいからと継続して参加してくれている方もいて、精神面のフォローに繋がっていると考えている。
認知症の方本人が楽しんでいる姿をみて、満足されている。一緒に参加をし、本人との絆を深めるきっかけとなっている。
傾聴ボランティアに話を聞いてもらったり、他の介護者との情報交換ができています。
・ご家族の涙を見た時(苦しみを吐き出す場になったことが分かって。) ・ご家族が定期的にいっしょの時(居場所として機能しているため)
専門職・同じ介護者として話をする機会となっている。話をする事で、気持ちを共有したり、アドバイスを受けることが出来ている。
息抜きの場、相談できる場となっている
家族と一緒に参加できる場所があることで、安心感を感じていただいています。
当事者と一緒に参加いただく事で、会話の拡大を感じていただいている。
ピアサポートの場になっており、楽しみにして参加されている。
本人と一緒に出掛けられる場所になっている
周囲に認知症であることを打ち明けられるようになった。
介護に悩んでいる方が、介護経験者と話をして気持ちが落ち着いたとのことだった
相談に来るご家族にご紹介すると「こんなところがあるんですね」とホッとしてくださったりします。
ご主人の認知症介護で自分の身なりをあきらめていた奥様がここに来るときはおしゃれして来てくれるようになった
ご本人が回りの人と一緒に過ごされているのを安心された様子で見えています。
安心して何でも話せてホッとできる場であり、元気が出ると話される。サポート医がわずかな時間でも参加されるのを待っていらっしゃる グリーフケアにもなっている(介護が終わって自身の気持ちを話される)皆の顔を見て安心して自分の気持ちを話せたと

(エ) 専門職等への効果の事例・内容【自由記載】

専門職等への効果の事例・内容(抜粋)
認知症等の方への居場所として周知できる先ができた
その人の専門性を生み出すことができた
看護師は医療処置だけでなく、地域で暮らす方の健康を維持増進させることが職務です。地域で認知症の方を見守る体制づくりの一端を、この認知症カフェを通じ学んでいます。地域で活躍している訪問看護師に、もっと予防的視点を持っていただき活動の幅を広げていただきたいと思います。
初期～後期における家族の苦悩がより現実的に理解できた。時間的ゆとりを持って家族に接することができる。
当事者・家族の情報収集、個別支援への繋ぎ
サービスを利用していない相談対象者と定期的に関りを持つことが出来る。
適切なタイミングで適切なサービスへの移行が可能。初期の認知症の人をサポートする資源の一つとなる。
地域の方と認知症について検討できる
参加者からの質問をそれぞれの専門職の得意分野からお話ができる
介護サービスへつながる前の見守りもでき訪問より長い時間を過ごせるので参加者のことの把握ができる
プログラムの工夫をそれぞれが考え、企画するようになった
認知症に関する今の地域の現状、空気を肌で感じていただき、それぞれのアプローチで関わって頂くことができる
家族の方の笑顔に気付くことが多くある。カフェの必要性を実感できる。
家族の実情を理解する場になっている
見学希望を随時受入れて参加されて介護者の本音を知り勉強になったと言っていた
参加者や家族からの相談をダイレクトに包括へ繋ぐことが出来ている。
話の中で出た困り事を速やかに相談対応につなげることができる。
認知症の方を担当しているケアマネージャーが見学され、その後利用者をご案内していただき、参加に繋がったケースが複数件ある。
参加者の中からサービスにつながったケースもある
認知症の方や住民の変化を知ることができる介護相談の対象者を知ること
月に一度のケアプラ職員による「ミニ講座」や「介護者の集い」を行うことで、顔が見える関係で地域の現状を知ってもらっている。
介護者の思いや悩みを実感でき、日常業務にも活かせる
回想法の効果を肌で感じてもらえ、輪が広がっている
認知症の方やご家族から直接困り感を聞くことができ、ニーズの把握につながる。
地域の方の様子など情報収集にも役立っている。
以前、介保サービスで質問を受けた事がありますがほとんどありません。
関係者の皆様のご苦勞に感謝している
カフェでいろいろな情報発信ができる。

(オ) その他の効果の事例・内容【自由記載】

その他の効果の事例・内容(抜粋)
認知症の方を地域で支える(声をかける、サービスに繋げる、困っていたら助ける)一歩が生まれていると思います。
他府県のカフェ(ケアラー支援)と繋がっています。
社会福祉士・看護師等の実習生の参加
認知症になっても安心して暮らせる地域づくりができる。
地域ボランティアの活躍の場
地域包括ケアを微力ながら実践できている
認知症 という単語が自然と口にできる地域を醸成
近隣に横浜国大があり、時々国大生の利用もあり、多世代交流の場にもなっている
ボランティアさんの認知症に対する理解が深まってきている
男性の介護者同士で話ができたり、若年性認知症の妻を介護する夫同士で話をするのができていた。話ができなかったという感想をきくことができた。
ボランティアや参加者が顔なじみになり、「認知症になっても住み続けられるまちづくり」の一歩が築けている
デイサービスにつながらなかった方が、定期的に集いに参加する習慣がついたことでデイサービスに行くことができた。
認知症予防カフェの参加者同士の交流も深まっている
カフェに参加して、主旨に賛同して、ボランティアに参加してくれるようになった
気軽におしゃべりができる場所であること
ボランティアさんのやりがい・生きがいに繋がっています。
医師が参加しているので、定期的に質問や状態の変化に気が付くことができる
取り敢えず、介護保険を利用する前の受け皿の一つにはなっていると思います。
当事者及び地域の方が垣を作らず交流ができている。
認知症キャラバン・メイトや地域のボランティアさんも認知症の心配な方がいて、その方達の為の認知症カフェの運営にもつながっています。
症状が進行して一人で駅まで来れなくなり不参加となりましたがカフェの前後にメールや電話で連絡して楽しいおしゃべり、穏やかなひとときを思い出しみなさんと会いたいと話され直接会えないですが交流が続いています(他区から参加の方です)
毎月楽しみにして下さっている事にスタッフ一同感謝です
ボランティアにとってもやりがいがある楽しい時間

5.4.2.「HAMA OLE! (ハマオーレ)」の有用性(5.4.1.で「見たことがある」を選んだ方) 結果詳細

理由(抜粋)
他のカフェでの取組内容を知ることができた
いろいろな取り組みが参考になった。
内容については写真もあって分かりやすいが、運営側として周知の工夫や資金のことなど本当に知りたいことはわからない。
他カフェの状況が分かった
色々な認知症カフェがあることを知る機会にはなるが、良いと思う取り組み等があっても簡単には取り入れられないため。
具体的な活動内容が報告されていて、参考にできそうな取組を取り入れたい
活動の雰囲気がわかりやすかった
他の認知症カフェの取り組みを紹介してくださっていて、自分の取り組みの参考になった。
他のカフェの様子が変わること
様々なスタイルの認知症カフェがあることを知る機会になった
カフェ見学に行き、実際質問が出来たので、大変参考になった。
他のカフェの様子も知れる。カフェ同士の相互交流も大事だと感じているので。
他のカフェの取り組みや想いを知り励みになった
メンバーにも他でどのようにしているかを共有できた。
他の認知症カフェの実施状況や運営等の工夫を知ることができると
多世代交流を行っているカフェがあることを知れた。
他の認知症予防カフェの取り組みを理解して、運営に役立てる事ができる。
本来の認知症カフェの目的(目指すもの)や支え合うことの大切さがよくわかります。
他の取り組みからヒントをもらえる
それぞれで色々なやり方があっていいと思うから
他施設の開催状況

5.4.3.「HAMA OLE! (ハマオーレ)」で取り上げてほしいテーマ【自由記載】 結果詳細

「HAMA OLE! (ハマオーレ)」で取り上げてほしいテーマ(抜粋)
民間のカフェとコラボレーションしている事例
それぞれのカフェの特徴や工夫を知りたい。
認知症当事者が具体的にどのようにかかわっているか。当事者の思いなど。
地域に理解し受け入れてもらえる周知方法、必要な人への周知方法
開催の仕方やご本人の希望や気持ちを聞きたい
継続のための工夫、スタッフの補強方法について知りたいです
他地域ではどのように認知症カフェをやっているのか
当事者本人が活動に参加している様子
認知症本人、家族が求めている事
認知症当事者が役割を持って参加する際の工夫について
当事者が活動していくためのヒントなど
本人参加をどう増やすか、また本人が増えた時の運営について
当事者や介護者の参加を増やすには、どうしたらいいか
施設やデイサービスで行っている認知症カフェではなく、地域住民が始めたカフェの特集

5.6.認知症カフェの運営者向け研修で取り上げてほしいテーマ【自由記載】

認知症カフェの運営者向け研修で取り上げてほしいテーマ(抜粋)
人員の確保について
認知症の方が楽しんで参加できるプログラムについて
認知症カフェがどういったものをしっかりキャラバン・メイト向けに研修を行って欲しい
本当に参加していただきたい人たちへどうやって情報を届けるのか? プログラムが一番悩みます(誰か呼ぶにしても、講師費用など捻出することが難しい)→参加費は比較的安価に設定している
専門職ではない一般の地域住民が多くかかわっているので認知症当事者への関わり方などを学んでほしいと思っている。
認知症の人の ACP 支援について。
認知症カフェのあるべき姿
他の地区での認知症カフェはどのように周知して発展したのか知りたいです。
グループワークを中心に、開催店舗の活動状況を共有したい。参考情報を知りたいのはもちろんですが、グループワークを行う事で交流の機会となり、繋がりを持てることが望ましい
開催内容を共有したい
①みんなのお悩みの共有 ②認知症カフェと他の集まりとの違い ③地域と連携する・溶け込む方法
どのような形で認知症の情報を提供しているか
認知症カフェのボランティアの交流会を区域で行う。
認知症の方を介護している家族の思いなど学べる機会があると良いです。
活動地域内の認知症カフェの実態(運営母体をどう考えているのか。認知症カフェ自体の定義、何でもありなのか?一般市民が実施するための協力体制は整っているのか?)などを知りたい。
認知症カフェが取組む課題を明確にして国や行政が提供するサービスの情報提供
認知症カフェの中で参加者に提供する認知症予防のためのプログラム
認知症カフェの周知方法
認知症予防と認知症の進行を遅らせる方法について
回想法
ユマニチュード
コロナ禍の前後で変化したこと
協力医との連携などをしている認知症カフェがあったら教えていただきたいです。
認知症カフェが地域に喜ばれている様子を励みにしています。他のエリアでの活発な様子や工夫されている点を随時、チームオレンジ新聞のような形でみられたら、住民様にも有益な情報が届くと思います
若手の運営スタッフがいるカフェがあれば、紹介していただきその状況について伺いたい。
今後、認知症患者の方がますます増える中、身寄りがなく緊急連絡先のない方、事情があって書きたくない方、書けない方も増えてくると考えられます。 そのような相談を受けたときに、まずどこに相談すればよいのか? 成年後見人制度についてなど、基本的な知識を知りたいと思います。
認知症カフェが地域に受け入れられ、当事者の方が参加しやすくなる地域づくりの事例、また民生委員や地域ケアプラザが認知症カフェに関わって成功している事例の紹介 など
回想法の講座
カフェでできるプログラム
プログラム(体と頭を使って誰でも簡易に出来る楽しめる内容)
若い世代にどうやったら認知症カフェを引き継いでもらえるか?
認知症の診断と治療について

⑥開催方法	<input type="checkbox"/> 1. 定期的なサロン活動等のうち特定の日を認知症カフェとして開催している <input type="checkbox"/> 2. 定期的に認知症カフェを単独の取組として開催している <input type="checkbox"/> 3. 認知症の普及啓発等のイベントに合わせて開催している <input type="checkbox"/> 4. その他（具体的に： ）
⑦開催頻度と時間	<input type="checkbox"/> 1. 定期（具体的に ）例：毎月第2水曜日 <input type="checkbox"/> 2. 不定期（具体的に ）例：年4回 ● 時間 時 分 ～ 時 分まで
⑧参加費	<input type="checkbox"/> 1. 1回ごとに参加費をもらう <input type="checkbox"/> 2. 無料 <input type="checkbox"/> 3. その他（ ）
⑨主なプログラム （複数回答可）	■ カフェで主に行われる内容すべてをチェックしてください。 <input type="checkbox"/> 1. 特にプログラムはない <input type="checkbox"/> 2. ミニ講話 <input type="checkbox"/> 3. アクティビティ（歌、工作、作業など） <input type="checkbox"/> 4. 介護相談 <input type="checkbox"/> 5. カフェタイム <input type="checkbox"/> 6. 家族と本人が分かれてミーティングを行う <input type="checkbox"/> 7. その他（ ）
⑩カフェの主な目的 （2つまで回答可）	<input type="checkbox"/> 1. 認知症の本人や家族同士の相互交流・情報交換 <input type="checkbox"/> 2. 家族の介護負担の軽減 <input type="checkbox"/> 3. 認知症症状の悪化予防 <input type="checkbox"/> 4. 地域での認知症啓発 <input type="checkbox"/> 5. その他（具体的に： ）
⑪1回あたりの平均的な参加者数と内訳	◎毎回の平均的な合計参加人数（ ）人程度 ● 認知症の方（ ）人程度 ■ 認知症の方の年齢 1. 65歳以上の認知症のご本人（ ）人程度 2. 64歳以下の認知症のご本人（ ）人程度 ■ 認知症の方の役割 <input type="checkbox"/> 1. 主に参加者として <input type="checkbox"/> 2. 役割を持ってもらう（役割内容： ） <input type="checkbox"/> 3. その他（ ） ● 家族（ ）人程度 ● 地域住民（ ）人程度 ● 専門職（ ）人程度 ※当てはまる職種すべてにチェックをしてください <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 社会福祉士 <input type="checkbox"/> 介護福祉士 <input type="checkbox"/> 介護支援専門員 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> その他（ ） ● その他（ ）人程度（例：民生委員・キャラバンメイト） （具体的に： ）

<p>⑫運営スタッフの内訳</p>	<p>■認知症カフェの運営を専属で担当するスタッフの有無</p> <p><input type="checkbox"/> 1. いる</p> <p><input type="checkbox"/> 2. いない</p> <p>■運営スタッフの総数（ ）人程度</p> <p>■運営スタッフの年齢</p> <p>1. 49歳以下（ ）人程度</p> <p>2. 50歳代（ ）人程度</p> <p>3. 60歳代（ ）人程度</p> <p>4. 70歳代（ ）人程度</p> <p>5. 80歳以上（ ）人程度</p> <p>■運営スタッフの職種</p> <p>●地域住民（ ）人程度（所属組織など： _____）</p> <p>●専門職（ ）人程度</p> <p>※具体的な職種をチェックしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 社会福祉士 <input type="checkbox"/> 介護福祉士 <input type="checkbox"/> 介護支援専門員</p> <p><input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>●その他（ ）人程度（具体的に： _____）</p>	
<p>⑬運営スタッフ等の役割について</p>	<p>地域住民の役割</p>	
	<p>専門職の役割</p>	
	<p>その他の人の役割</p>	
<p>⑭開設にかかる資金について（複数回答可）</p>	<p>■開設費（ ）円程度</p> <p>※具体的な内訳</p> <p><input type="checkbox"/> 行政機関・公的機関からの助成金・補助金（ ）円程度 （例：横浜市社会福祉協議会のよこはまふれあい助成金など）</p> <p><input type="checkbox"/> 行政機関・公的機関以外からの助成金・補助金（ ）円程度</p> <p><input type="checkbox"/> 法人などで予算化（ ）円程度</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ ）円程度</p> <p>■具体的な補助金名を教えてください。</p> <p>（ _____ ）</p> <p>※具体的な用途</p> <p><input type="checkbox"/> 会場費（ ）円程度</p> <p><input type="checkbox"/> 消耗品費（ ）円程度（例：コップ等）</p> <p><input type="checkbox"/> 備品費（ ）円程度（例：オーディオデッキ・テーブル等）</p> <p><input type="checkbox"/> 食料品費（ ）円程度</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ ）円程度</p> <p>（具体的に： _____）</p> <p>■上記以外で不足している資金があればご記入ください。</p> <p>（ ）円程度（具体的な用途： _____）</p>	

<p>⑱カフェの<u>運営以外</u>で協力をしてくれる団体 ※直接の企画運営以外の広報等の協力のことを指します。</p>	<p>■具体的な協力団体とその内容をご記入ください 例) 町内会が会場として町内会館を貸してくれる。</p>
<p>㉓始めるにあたって課題となった点 (複数回答可)</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 場所の選定 <input type="checkbox"/> 2. プログラムや内容 <input type="checkbox"/> 3. 費用 <input type="checkbox"/> 4. 広報や告知 <input type="checkbox"/> 5. 所属組織の理解 <input type="checkbox"/> 6. 地域の理解 <input type="checkbox"/> 7. その他</p>
	<p>具体的にご記入ください：</p>

2. カフェの運営の現状や課題について伺います。

2-1 下記の項目について、もっとも当てはまると思う番号を○で囲んでください。ご記入された方の主観で結構です。

	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	思わない
①認知症の方の参加者が集まらない	4	-	3	-
②認知症カフェの認知度が低い	4	-	3	-
③地域の理解が得られていない	4	-	3	-
④開催場所の確保が難しい	4	-	3	-
⑤運営費用の確保が難しい	4	-	3	-
⑥プログラムや内容で困っている	4	-	3	-
⑦運営スタッフが集まらない	4	-	3	-
⑧運営スタッフのスキルアップが必要	4	-	3	-
⑨全般的に順調である	4	-	3	-
⑩他の認知症カフェとのつながりがある	4	-	3	-

2-2 現在、認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問についてご自由にご記入ください。

2-3 下記の項目について工夫を教えてください。アイデアだけのご記入でも構いません。

課題	すでに実施しているものは○	工夫
①認知症の人や家族に周知する方法		
②地域の人に周知、広報する方法		
③運営側の人材育成の方法、協力者の募集		
④継続的に運営する方法		
⑤参加できない人が参加するための工夫		
⑥参加しやすい雰囲気を作る工夫		
⑦他のカフェとつながりをもつ工夫		

3. 認知症カフェを運営するうえで、現時点でその効果が表れていると感じていることがあればその事例・内容をご記入ください。

効果	事例・内容
①認知症の人への効果	
②地域住民への効果	
③家族介護者への効果	
④専門職等への効果	
⑤その他の効果	

